

婦人は、男子に比して優美であり、穩雅であり、やさしい所がある、而も心小く氣狭く、負けをしみの情は強く、物をしみの意も亦強い弊があり勝ちである。特に虚榮に憧憬するが、婦人の通弊であつて、之はたゞられる男子は随分多いものである。故に犯罪の裏面に婦人あり、罪惡の影に女ありとの諺さへ出來て居る。

古より、婦人の道として、婦容、婦言、婦操、婦功を四徳としてあるが、前三者は婦人の精神的方面であり、婦功は婦人の手腕を云つたものである。家政に於て最も大切なるは、婦功である。衣服の選擇、裁縫等は何處の家でも婦人に任かせてあるが、食物の調理も亦婦人の受持であり、住宅の掃除整頓も婦人の仕事になつて居る。其處に婦人の功績が認められねばならず、婦人の手腕が發揮すべきである。特に家事經濟をよくする方法として、記帳と勘定とは、婦人の務として是非やつて貰ひ度いものでありやらねばならぬこととする。

衣食住は勿論、燈火、衛生、娛樂も、今日相應の智識と技能とを有する。金をかけ

ず、時間をかけず、手数をかけぬ用意は、何事の上にも必要であり、利用厚生の手腕も亦大切である。

#### ◇家政の要道 (其二)

社交儀禮は貴賤貧富の別なく心得て置かねばならぬことであり、必ず其必要に出遭ふべきものである。社交儀禮として、最もあり得ることは客の接待であり、贈答であり宴會であり、冠婚葬祭の行事である。

來れば則ち迎へ、往けば則ち送り、對すれば則ち和す、とは接客の心得である。可成、茶を出してすますがよく、有り合の菓子も漫りに出さぬがよい。長談議となり、時間を要する場合には、菓子を出す必要も生じ、食事を出すことも大切であるが、已むなき場合は別として、食事前に仕末をつけることに癖つけるが、自他の必ず心掛けべきことであるとする。盆や年末年始の贈答は出来る次けやめたがよい、親類友人の間に於て珍らしいものゝ到來に際し、之を分與するは結構、而も必ず答禮を都度する



煩は避けて然るべしとする。近來、盛になつて來たのは、迎送や親睦を旨とする宴會の流行である。それも、出来るだけ家庭でして、妻君の手腕に訴へることにするがよい宴會を口術にして外で飲食し、あちらこちらを飲み廻はるは、良妻を持たぬ不幸の夫であり、亭主であるとする。家庭の城廓が破れる原因、圓滿なる生活に裂け目が入るは、多くそれが爲めである。

冠婚葬祭は常にあることではないが、一度あるに際せば、一通ならぬ心配をし手敷をかけ、時間を費し、費用を要することである。故に豫め用意をなし、無意義の事は之を避け、虚榮に類することは一切之を排斥する民風を作るべきである。然らざれば確乎たる理想信念を保有して、世評を顧みることを敢てせぬ覺悟が必要であるのである。

生活改善會では、婚禮の費用を年収三分の一以内として居るが、僕の經驗に徴せばそれで澤山であり、立派に出来るのである。それがため、新に借金をつくり、永く苦

しむ機會をつくるは、愚の極である。而も農村に今日其弊の甚だしきを見るは、誠に痛嘆の至りである。農會や、産業組合や、實行組合では、規約としてそれを質素にするは、時節柄大切なことなりとする。氣のきいた町村では町村の規約として制限を設けて居るがそれは賢明である。

人の悲しむ葬禮に參列するはよいが、飲むだり食つたりするは、禮を失することであり、又た醜いことである。それ故に斯る慣行は斷然廢止すべきであり、自他戒しめて其廢止に努むべきである。近來、地方に於て稍革正されつゝある様であるが、未だ時間勵行が出来ぬ憾がある。

人の噂さを氣にしたり、井戸端會議で終始したり、餘計なことに負けぬ氣を出したり、小さい私情に囚はれ易いのは婦人であるが故に、社交儀禮に付て婦人の覺醒は、蓋し急務である近來、處女會も盛に出來、婦人の教育訓練も進むで來たが故に、團體の力を以て規約で以て、下らぬ慣行の打破をし、無意義な習慣を改善することが必要



なりとする。特に農村婦人の自覺せねばならぬ事である。

#### ◇婦人の教養

家政の主であり、内助の君であるも婦人である以上、婦人の教育修養は大切である。僕は三人の女子を持ち、内二人は既に人の妻に嫁した。其成績に徴して、僕の教育は間違つて居らず、女子に修養せしめても誤つて居らぬことを確め得たのである。

僕は、誰れにもすゝめて居り、何處でも鼓吹して居り度々繰りかへすことであるが化粧よりも禮容、容姿よりも溫情、財産よりも技能の標語を掲げ、之によりて女子の教育をなし、女子の修養をすゝむるのである。

奇麗にするは女子のたしなみであり、見よい形にするも女子に望まじきことである。それ故に化粧は或程度までは許さねばならぬことであるが、化粧に重きを置き禮容を粗略にしては、品のある、格のある女にはなれぬのである。男子に戯れられたりからはれて風儀を亂し、女子の貞操を破る基は禮容のないことにある。やさしき中に犯

すべからざるものがあり、麗はしき中に近よるべからざるものあるは、禮容である。それ故に禮儀作法を重んじ、言語を慎しむは、立派な女となる所以の道なりとする。而もそれは、心がけ一つで出来ることであり、修養さへすれば出来ることである。

女子は見目形に心を勞するものであり、肉體美に心をくだくものである。誰れにしても完全なる發達をなし、満足なる體格を有つは、望まじきことであるが、然し、或は色が黒かつたり、口が大き過ぎたり、髪がうすくあつたり、不具なものもある。それは天性で如何ともすべからざるもの、生れ付であれば餘儀ないことである。それは心配し、それに煩悶するは徒勞であり、愚である。寧ろ、溫情に富み、親切、柔和、溫良、奉仕の諸徳を備へて、人なつかしくせしめ、慰めらるゝものと認めらるゝ様に努めるがよい。之亦、修養により、心がけで出来る。

財産はあつて結構なもの、なくて不自由を感じるものであるから、あればある程結構、あるにまさつたことはないが、然し財産は喪失し易く、消費し易いものである。



餘計な心配もし、苦勞もし、世話な事がついて、廻はるが財産である。財産の原は、賢き勤勞であり、巧な技能にある以上、賢き勤勞をなし得るもの、巧な技能を有するものは、財産の源を持てるに等しく、恰も金脈や礦脈をもつと同様である。勤めは勤める程、勤に精くなり、技能を振へば振ふ程巧者になる。故に裁縫や料理や掃き拭は勿論、家財の整理に妙腕が振へる様にせねばならぬ。若しそれ、園藝、養畜、養蠶、其他手工業に技能が得られて居るならば、蓋し婦人は禪の神である。古い諺に藝は身を助くとあるが、何んぞ必ずしも其身ならむやである。

家の柱であり、中心であつた夫を喪ひ、亭主と別れて、悲痛の裡に、よく家政を整へ、女子の教育をよくして、名をなした人は、財産にあらすして技能にあるのである。故に所によつては、後家の家は繁昌する、といふが、蓋しだらしない亭主は居らぬがよい。家政教育は女の手腕に待つ所が多いからである。

◇家道は儉に在り

古語に、民生は勤に在り、家道は儉に在り、とあるが、蓋し至言である。即ち、民の生業は勤勞に榮へ、家政は儉によりてよく處理することが出来るとのことである。

儉は凡てのものを長く役立たせることであり、利用することである。それは、細いことに氣がつき、些小のものをも見逃さぬことにかけて、男子よりもまされる婦人に適して居る、故に良妻の資格には、儉の手腕を數へるのである。

官僚の人であつては故田尻稻次郎子、民間に在りては故金原明善氏は、共に儉を教へた本尊であつた。僕は兩氏に接し屢々教へられたが故に、幸にして儉の道に付て心得が出来た、否僕の家内も教へられて、内助の君たるを得たのは、僕の家内の幸とす。始めて金原翁が僕の家に来られし時、便所から出て曰く、御宅は貧乏に苦しめられました。と、僕は、何故ですかと尋ねた。同時に家内を招いて、金原翁の言を聞くことにした翁曰く、便所の手拭の使い方がなつて居らぬ。汚れる場所が汚れて心持が悪い、あれは風呂のある時、風呂に使つて御覽汚れが目立たないで済む、こんなこと



が氣の付かぬことでは、物の利用は出来ぬ筈。これは貧乏する人の通弊である。と。僕等は全く恐れ入つた、考へて見れば其通りである。爾來僕の家では注意することにしたが、子供が多くなつたり、用事が忙しくなつたりして、思ふ様に出來ぬことを何時でも悲しむで居る然し其心得がある丈で、僕の家では無駄の費用は比較的かゝらないですむで居る、それは僕の家内の功績であると、敢て妻君禮讃をするに吝ならざるものである。

役に立たせることが上手になれば、一のもので用が足ることになるから、更新する必要がなくなる。故に買はず、求めず、つくらすしてすむ、如斯して、餘計な心配手數、時間、費用を節し得る。更に進むで廢物利用が上手になれば、厚生が出来、新しいものを得ることも出来る。掃き集めた塵芥、流した風呂水、尿尿は利用によりて立派な肥料となるは其一例である。

儉約はものを使はぬこと、解釋するは、大なる誤である。使はぬものなら持たぬに

如くはなく、用ひぬものならない方が厄介でない。儉約は、物を粗末に使ふな、餘計なことに用ひないと云ふことである。

儉約を實行する農村には。往々

儉約實行中につき非人乞食此村へ入るべからず

と看板を上げた所がある。之は儉約を知らぬ所であり、儉約を誤解して居る所である。然るに

儉約實行中につき非人乞食此村より出づべからず

と掲示して居るがある。之こそ儉約を知つて居る所であり、儉約を正しく解釋して居る所である。

古より、吝嗇と節儉とは似て非なるものと教へてある。儉約を使はぬことと解釋すれば吝嗇となり、非道を敢てすることにもなる。故に儉約は守に注意すべく、行ふに用意すべきである。婦人が、動もすれば吝嗇に陥り易く、人情はづれたことを敢てす



るは、儉約を辨へず、注意と用意とを缺くからであつて、大に戒しむべきことである

#### ◇我國民の通弊

ものを粗末にし、ものを粗略にするは、我國民の通弊である。我國民が精神を尊ぶ反面に物質を輕んじ、魂に生きむことに急なる餘り、物に囚はれまいとした事に基因するのであらう。而も今日は、精神よりも物質に偏り、魂を忘れて物に執着する様になつて來たが故に、我國民性を喪失したと見得るのである。それならば、今少し物を大切にし、物を役立たせることにならねばならぬのに、それが出來ぬから始末が悪いのみならず、物に恵まれず、物に不足を感じ物價のみ高くなつて、生活の脅威をも受くるのである。

實際、我國民ほど時間を勵行せぬものは、文明國の中にはないのである。よく働いて、よく休むことに規律がなくよく勤めて、よく遊ぶことに節制がなく、爲めに時間が無駄になる場合が極めて多い物に至つては、言語道斷であつて、話にならぬ不始末

をして居るのが、我國民の通弊である。夜中電燈をつけつ放しで置いたり、水を滅茶苦茶に使ふなどは、餘りに情ないことである。一にも金、二にも金、三にも金、死ぬでも金と、恐ろしいほど執着して居る金の使ひ方さへなつて居らぬ。無用のことに平氣に使つて、之を有用に使ふことが出來ず、馬鹿なことに出して、公共公益に出すことが出來ぬのは、我國に於て凡百社會事業が進まぬ所以であるのである。

家は儉約實行の道場であり、節約の訓練所である。家政に注意し、家政をよくすることによつて、其習慣が付き、癖が出來るのである。それには、主婦が良妻であり、内助の君であらねばならぬとする。此意味に於て、我國の教育は今少し女子に歩を進めべきであり。而も女子教育は生活に即した實際的であるを要する。文學に耽り、化粧に凝り、戀を語るに巧みなる女子を作つてはならぬのである。それ故に、女子教育の擴張と改善とは、我國の通弊を打破する上にて、尤も緊急であり、必要なることであるとする。



茲に一言述べて置きたいのは、最近各府縣に婦人農會と云ふやうな名稱の下に婦人が會合して直接農業經營の事に當つたり、或は臺所品評會、便所品評會、苗代の病虫害驅除品評會等の事業を行つて居る所があるが、之は如何にも結構な事である。農村の仕事は今日までのやうに男子任せにして置くべきものではない、婦人には婦人として擔當すべき領分があるのであるから、其部分を分業的に擔當して行けば農業の改良は必ず出来る、自ら其局に當れば自ら責任も出て来る、理解も出来る。従つて家政の上にどれ丈の幸福を齎らすか知れない。よろしく婦人は積極的に自ら陣頭に立つて獨り屋内のみでなく此方面にも働いて貰いたいものであると思ふ。

#### ◇冗費節約の實例

近來、經濟的の壓迫に刺撃されて目醒めて来るものがあり、陋習に囚はるゝことの愚なるに覺醒して来る所もあるのは、蓋しよい傾向であり、賢いことであるとする。或る所では、實行組合又は小組合に於て社會部を設け、會堂を式場に當て、其處に

は、客用の家具道具を備へて共同に使用し、以て冗費を節約してゐるがある。葬式の場合では、婚禮の場合でも、懇意の人が訪問せる時でも、知人を招待する時でも、孰れも會堂に於て宴をなし、備付けの道具で用を足すのであれば、各自の家に客用の座敷を設くる必要はなく、客具を備ふる面倒もなく済む譯である、都市としては上田市に此施設があり、農村には到處に點在するを見るのである。

或所では、産業組合の利用組合で輿を備へ、上下を用意して置き、葬式の場合に之を貸與することにし、以て冗費を節して居るもある。愛知縣碧海郡安城町の里の組合では之を實行して居り、組合員は利便を得て居る。

左に示すは尤も新らしい試であるから如何に實行されるか、如何なる効果を齎らすか、未定ではあるが、斯る規約を作り、申合はせをなし、以て冗費の節約、と陋習の打破をせむとする思想が流布しつゝあることや、試みをすることに工夫することや、斯る施設が流行しつゝあることは、看過すべからざる事實である、故にそれ等の人や



地方に参考として提供するものである。

岐阜縣惠那郡阿木村信用組合元費節約申合規約

第一條 本組合員は元費節約の爲め本申合規約を制定す

第二條 本組合員の選舉により元費節約世話係十三名を置き世話係は名譽職とす

第三條 元費節約は別に定むる細則に依ること

第四條 冠婚葬祭及普請を行はんとする組合員は其旨組合長に申出で費用支出の指揮を受くべし。

第五條 組合長其申出を受けたる場合は世話係外に其申出組合及親類總代時の村長の

會合を求め其費用支出の協議會を開き別に定むる細則に依り其支出額を決定すべし

但し急を要する場合は組合長に於て専決することあるべし

第六條 前項協議會決定の費用支出額以内に於て當該組合員は其式典を擧ぐべし

第七條 組合長及世話係は其費用支出の監督の責に當るべし

第八條 組合長世話係は冠婚葬祭等にて當該組合員に接觸するとき何等の響應を受け

ざるは勿論御禮等の贈與を絶対に受けざるべし

第九條 前項に付き萬一響應禮等の提出を云々したる場合は直に其信用程度を低下するものとす

第十條 第六條に違背したる組合員は信用程度を底下するものとす

第十一條 本則は昭和二年三月六日より施行す

元費節約申合規約施行細則

第一條 男女を他家へ縁付ける場合夫に關する一切の費用總額は其家の年收の五割以内とし外に式服料として金五十圓式服新調の人に限り支出を認むること

第二條 祝言費用は結納金祝言費等一切にて其家の年收二割以内とすること

第三條 他村より嫁婿を貰ふに付ても其衣類道具等の仕度を本村内に入る場合は本組合員仕度の例に依らしむべし



第四條 七夜費用は其家の年收一割以内とすること

第五條 葬式費用は忌中明費用と合算して其年收の一割以内とすること

第六條 佛事の場合の馳走等は其家にて食するのみに限ること

第七條 第一條乃至第五條の費用支出の細目は適宜世話係にて決定すること

第八條 招待を受けざる者は祝言七夜門出等絶対に臨場せざること

第九條 門出の場合餞等は贈呈せざること

但し重箱二個以内及産着は木綿物に限り之を認むること

第十條 祝言七夜の場合は櫃産着は贈呈せざること

第十一條 葬式の際花輪造花放鳥等の贈呈は絶対に廢止のこと

第十二條 普請の場合其施主の依頼なき限り手傳に行かざること

尙投餅酒肴等は贈呈せざること但し當日以外の同時に於て祝儀料として輕少なる贈呈は認む

第十二條 第八條乃至十二條の事項は他町村の者との間に於ても相方に遵守せしむること

規約や細則は其地方に於て實行され易きを眼目とすべきである、如何に合理的でも勇斷的でも、實行されねば、畢竟畫餅に等しい笑を招くことになるであらう。僕の經驗に徴せば、阿木村の細則に掲げてあるものは、尙節約の餘地があると信ずる。然し如斯きは強制すべきものでなく、理窟通りにも行かないものであるから、地方に即したものであらねばならぬとする。

唯、虚榮に走つたり、人の批判を恐れたり、愛情の誤れる觀念に制せらるゝことは斷じて行ふてはならぬのである。况んや、吝嗇の爲めであり、慾の爲めであるは、賤しむべきであり、排斥すべきであるとする。

斯る施設、規約の實行に付て、尤も理解あるべきは婦人である、理解あらしめねばならぬも亦婦人である。若し婦人に此理解がないならば、亭主は大低泣き倒されて仕



舞ひ、親はクドキ落されて仕舞ひ、切角の名法名案も行はれず、世には甚だ多いのである。僕の知人に自覺せるがあり、産業組合長の地位を利用して、陋習打破と同時に冗費節約を思立つて其娘さんの婚禮に際し、冗費節約を断行せむとした、よいことは早くやらねばならず、それは人の上に立つものから始めねばならぬが順序である。世に愚なるは婚禮に冗費をかけることである、之を矯正するにはお前が嫁に行く時を機會とすべきである、と娘に申聞かせ、おれをして善事に断行せしむるは、お前の任務であるぞ、と妻君に申聞かせて愈準備にとりかゝると。道理に理窟の言ひ様がなく、父や亭主のよい仕事を断行するに文句も言へないので妻と娘とは暇さへあれば隠言を言つては泣く、泣いては相談する。それが毎日つゞき、毎日つゞいたのでさしもの組合長も閉口し、弱はつて仕舞ひ、遂に妻君や娘に泣かすに置いてくれ、世間並にはしてやると、遂に改革の意志が断行されず、矯正の機會を失したといふが實際を失したといふが、實際あつたことである。

女の武器は涙である、時には正宗の銘刀にまさる切れ味があり、時には村正も及ばぬ鋭さがある、道理も涙によつて通らぬことになる、理窟も涙によりて消滅し、名法妙案も臺なしにされて仕舞ふが、世に多くある事實である。名君も彼の涙によりて暗愚となり、賢相もそれによりて迷惑し、武將もそれによりて敗殘者となる、況んや凡人に於てをやである。

町村の施設計畫は多く男子によつてなされ、條例規約も亦男子によりてもつくらるゝが、其實行は男子のみでは出来ぬ場合が多い。寧ろ女子の理解ある援助激勵的の加力に待つが幸であるとする。故に町村の施設計畫は女子に知らしむべきであり、條例規約も婦女子に納得せしむべきである。特にそれは家政の方面に於て多く、家政上のことに効果が顯著である。

#### ◇ 社會教育の一面

近來、社會教育の必要が痛感され、各府縣には社會教育主任までが配置さるゝこと



になり、或は成人教育に、或は青年男女教育に、非常の進歩を見るに至れるは、誠に結構なことなりとする、然し、社會教育の一生面は、婦人に對し生活改善上の智識と技能とを賦與することであり、くうせねばならぬことなりと斷ずる。西洋の先進國では、農村に家政婦を配置して、主として主婦、主婦たらむとする婦人に家政上の指導啓發をやつて居るといふが、我國でもそうあり度いものである。

今や世界各國が驚異の眼を以て見ねばならぬ國は丁抹であらう。丁抹には各國の人が取つて以て範とすべきことが多く則るべきことも澤山あるが、丁抹も婦人が家政に優秀の手腕を以て居ることは、何人も見逃がすことが出来まいと信ずる。丁抹が教育に思切つて改革を試み、國民高等學校を創設したことは、周知のことである。又た農業の經營に舊套より脱した新らしい經營振りを斷行し、生産の増加を計つたことも模範とするに足ることである、更に經濟組織を完備して、經濟的行爲に偉大なる成績を上げつゝあることも師とせねばならぬことである。而もそれ等の裏面に賢明にして理

解ある、健康にして手腕ある婦人が、如何に大なる貢獻をなしつゝあるかは、知らぬ人が多く、知らしむる人も尠いのは、誠に遺憾とする所である。

賣れ残りを巧に利用して、男子に不平を抱かしめず、劣悪なるものを善美化するに妙腕を振り、よく共同の効果を認めて、共同團體の活動に資するは、丁抹婦人の面目とする所である。それが、上流の家庭よりも中産階級に其人ありと云ふは誠に羨ましき限りである。

我國では、中流及其以下の家庭の女子が、往々行儀見習として上流の家庭に入らむことを欲し、入らしむる習慣がある。而も丁抹では、上流の家庭の婦人が、中小の家庭に家政見習に行くを原則として居るといふが賢いではないか。行儀作法は勿論大切であるが、それは形式である、家政は生活の根本であつて見れば、丁抹のやり方が、實際生活に即したるやり方である。道理なる哉、我國は生活の型式のみ向上し、進歩するが、生活の實際は改善されぬ、改善される方面もあるがそれは牛歩である。論よ



り證據、生活の型式が進むで生活難に陥るものが多くなり、生活資料のみ美化されて生活の内容が悪化しつゝあるが、今の我國の状態ではないが。

今や、我國には官民合同の生活改善が組織されて、生活改善の研究、調査成績の發表もあり、生活改善は社會問題ともなれるに到つたことは、遲蒔ながら結構である。然しそれに関して社會教育上何等の施設なく、試みもないは、物足らぬ感がするは、獨り僕のみではないと信ずる。

頃日、僕は、千葉縣君津郡の女子青年會の第四回總會に招待されて往つた。種々のプログラムの中に協議問題があつたが、それは「生活改善上女子の盡力すべき點」といふのであつた。前から各町村の女子青年會へ通知をし、研究調査をなさしめてあつたと見へ、協議が議題となつた時、或は女子青年團の決議として、或は個人の意見として、有益なる種々の意見を聞くを得たことは、欣快に堪へなかつた。當時、懸應から社會課の人々が出席され、之れに對して激勵の話があつたが、千葉縣では社會教育

として、生活改善の方面に一生涯を開かむ理想を見るを得たのである。

従來の社會教育は、修養方面か、常識涵養か、然らざれば勤儉貯蓄か、それでなくば、運動競技の指揮に過ぎなかつた感があつた。換言すれば、實際生活に即したる教育や指導は出来なかつたのである。特に男子に偏つて女子に及ばず、青年男子に忠實であつて、青年女子を閑却した弊があつた。今やそれ等の弊は到處に顯はれ、或は都市への憧憬となり、農村忌避となり、或は市民生活を欲して農村生活を忌み、月給取本位になりて農耕の人たらざらぬとする様になつて來たことは何處も同じ秋の夕暮れの感なくんばあらずである。

農村の青年男子を脅威しつゝある唯一の問題は、結婚難である。それは單に農業忌避するに因るに非らずして、農村生活の惨めなことに愛憎をつかしてゐるからである。澄明の光線は農村に輝いて居るではないが、清淨の水は農村を濕しつゝあるではないか、青い草に、秋は紅葉に色どられるのは農村の風景ではないか、新らしい野菜があ



り生きてる禽獸を見るも農村の風物ではないか、自然に恵まれ、科學的に幸ある、物質的にも不自由なきは、農村の生活であり、農民の生活であらねばならぬのに、それが出來ぬは、主として農村婦女子に家政上の知識と手腕とがないからである。

都市の勞働者の生活は氣の毒である、同情せねばならぬが、斯る氣の毒なる境遇に賃金の値上げのみで解決は出來ぬ。同情せずに居れぬ悲惨な生活振は、勞働時間の短縮のみで癒すことは六ヶ敷のである。家庭を持たぬ人は別だか、家庭を持てる人々の内助の人に教育が欠けて居り、特に家政的の教養がないが通弊である以上、此欠點が除去され、此通弊が消滅せざる限り、勞働者の生活を幸福にすることは出來ないと斷ずる。

都市と農村とを別たす、生活の向上をはかり、生活を幸福にするは、勿論多くの施設を要し機關の整備に待つべきであるも、先決問題は、社會教育の普及をはかり、家政上に於ける婦女子の智能を啓發することである。換言すれば、婦女子をして物資の

利用厚生に妙手腕を振はしめ、男子をして満足せしめ、男子をして婦女子に敬虔の念を起さしむることである。

僕は嘗つて或る婦人會に招待されて住つた、來會の婦人に身分のあるが多く、智識階級に屬する人が多かつた。其で僕が輕遇されたのであるが、又當時僕は田舎の一農學校長といふ身分であつた爲か、兎に角不快な氣持にならざるを得ぬ程非禮と感じたことがあつた。激し易い僕は、あの高漫な鼻柱を折つて見ようと決心し、僕は皆さんに御話する前に一寸承はつて見度いことがあります、それは「一升の米が飯に炊き上げられた時、普通の茶碗に普通の盛り方をして、平均幾杯になりますか」とかといふことである、お答を願ひます、誰れでも構いませぬ御即答を願ひます」とやつた所誰れも返事をするものがない、返事が出來ぬと首を下げる、頭を低くするばかりである。そこで、僕は云つた、皆さんは毎日御飯を御炊きになりましたか、炊かせる人もありませんが、それが何年、何十年、繼續されて、尙且つ碗數の平均がとれぬとは



何んたる盆槍ぞや、其平均を知らぬとは、何んたる愚さぞや。僕は男子であつて、僕の家では飯を炎いたことがない、飯の給仕もしたことがない、それでも廿七杯が平均であることを知つて居る。上手に炊けば、合理的に炊けば、同じ米を、同じ水加減で三十二杯に平均を上げることも知つて居る。皆さんは偉そうに見へるが、一家の經濟の根本を知らない、皆さんは伶俐そうに見へるが生活の基調に付て大切なことを知らない、それで立派な妻君でありましょうか賢夫人でありましょうか、と更に聲を張り上げて、そんな婦人方が僕の話の話を聞かうとするは生意氣であり、越權であると一喝したら、婦人連は恐縮して仕舞ふた。爾來其處では、僕は偉い先生になつて居る。

全く日本の婦人は、明識階級でも生活上の智識を欠いて居る、書を読み文を書いて、家政上の技能を欠いて居る。それが我國の貧乏する所以であり、我國民が低級なる生活をせねばならぬ所何である。此弊を矯正し、此悩みを除去するは、一に教育の改善に待つべきは勿論であるが、とり敢へず、社會教育に一生涯を開くが肝要なりと

する。社會教育にに新らしい施設をするも必要であるが、社會教育に任ずる人達が、婦人や女子青年に對して、生活改善に付ての分擔を知らしめ、家政上の智能を啓發するに努力を新にすべきことを慫慂する。

#### 婦人と産業組合

婦人が婦人の分擔を遺憾なくせむと欲せば、婦人をして家政上進むだやり方をなさしめようとするならば、如何しても婦人が産業組合を理解して、其利用を巧みにすることであり、しかせしむることである。

家政にも種々の方面はある、然し經濟に關することが多く道德に關することも亦多い。今日の政策として、民衆の經濟と道德とを併進せしむる唯一の機關は、産業組合にまさるものはないのである。

#### 一、信用組合

亭主や親に借用せしめぬ用意と手段とを取るは勿論大切であるが、借金せねばなら



ぬ場合のあるは、亦免がれぬことである。而も、倒産の多くは高利に追はるゝが爲めであるを知ると同時に、道徳的に進退し、信用を高め、以て信用組合を設けて低利の資金を融通することにせねばならぬと悟ることが大切である。故に信用組合のない所は之を設け、既設の所は之が利用に賢なるを心がけねばならぬのである。

何處までも他から信用を得ることが出来る様、飽くまでも信用を損せぬ業、夫を督勵し援助し、親を後援し助力することが出来ねばならぬ。其處に内助の人たる婦人の勤めがあり、女子の務めもあるとする。借金は身を亡ぼす母である、と云ふは反面の眞理であつて、全體の眞理ではない。借金の爲めに事業の改良が出来、發達が計られ擴張も出来るのである。借金は恐るべきものでない、恐るべきは借金の質と高利とである。

尙地方で出来た金は地方に保留することが原則であり、原則とせねばならぬのである。喰ふものも喰はぬ様にして溜めた金、夜の目も眠らないで稼ぎ出した金を、銀行

や郵便局に預け、それが皆中央で利用され、資本家に利用され、其結果地方は金融梗塞して、低利資金のために政府や府縣廳にお百度を踏むが如きは恐なることである。まして銀行の破産に出遭ひ、支拂停止を喰つて、全額又は何分の損失をするは、愚の極である。信用を基礎として、組合員が作つた信用組合であれば、信用の濫用さへなさずば、たとへ利息は安くとも、低くとも破産や倒産の憂はない筈のものである。故に、資金を要することの多い時節柄、資金融通の必要が増す今日は、地方の金は地方に保留する様にすべきである、同時に各自の預金や貯金を利用することにせねばならぬのである。それには、信用組合を愛護し、資金の充實をはかり、幹部の人を精選して、其貸出に注意を仕合ふ様にすることが肝要である。金融機關を欠いて居るために資金を得ることに困難であり、高利なるが常であり、貯金がし易しからざる農村に於ては、特に信用組合が重寶視されねばならぬのである。此の理解が婦人に出来ねばならず、女にさせるが大切である。



## 二、購買組合

生産に要する物でも、生活に必要なものでも、買い方によりて得失があり、利損のあるは誰れでも知つてゐることである。而も買い方に下手であり、拙劣であるは、我國民の通弊であり、別けて農民に甚だしいものがある。

安いものが得の様に考へて、一文惜しみの百知らずと笑はるゝがあり、高價のものがよいものゝ様に考へて、農民はだまし易いと侮るゝがあり、人一倍金を出して居て誰れにも讃められぬは、我農民の状態である。自分の用品を人に托して買はせたり、買ふことを恥ぢて他をして買はせる不合理は、都鄙を分たぬ悪い癖である。それが農民に於ては、殆んど大膽と云はねばならぬ程に無頓着に行はれて居る。或は借り買ひをする癖があり、それが損だと承知して居る、尙且つ改むることが出来ずに居るが、亦農村の通弊である。

要するに買方に付ての教育訓練が出来て居らぬ、故に何を買ふべきや、如何に買ふ

べきや、買つて如何にすべきやに付て、周到なる用意と手段とを欠いで居る。必要は買ふ場合に必要なる條件である、必要を感ぜざるものは買ふべきでない、必要以上の數量と物とを買ふてはならぬ。必要によつて買つた以上必要が充たされねばならぬのである。必要なれば高價と雖ども買はねばならず、不必要のものは廉價なりと雖ども買ふてはならぬ。必要以上の物を買ひ、量を買へば、それは贅澤となり奢侈にもなる必要を充たして餘りがあれば、それは無駄となり餘計なことをしたことになる。よいもの必ずしも贅澤ではない、高いもの必ずしも奢侈ではない、必要以上となつて初めて奢侈贅澤の嘲を受けることになる。大切にされる程度でもものは買はねばならず、濫費する程度であれば奢侈贅澤になるのである。買ふ場合は、如上のことを忘れてはならぬと敢て言ふ。

買ひ方を正當にし、便利にする機關は、産業組合法による購買組合である。都市に於て、市民は消費組合を設けるが、同一の目的を果さむが爲めである。それ故に、奢



侈贅澤に陥らぬ道德觀念の高き所、經濟的に行爲の向上をはかる意識の進むた所は、必ず購買組合を設けたり、消費組合をつくるのである。安く買ふのが購買組合唯一の目的ではない、それがまた經濟上至上の手段ではないのである。餘計な心配をせず時間をかけず、手数を費さず、質と量とに無駄を避け得る所に購買組合や消費組合の功徳があるのである。それ故に利益主義や、採算的の功利主義で購買組合を獎勵しては失敗に陥り、消費組合を作つては失望することがあるが常である。不便なる農村に於て不備なる農村に於て、教育に恵まれざる人の多き農村に於て、買方を正當ならしめ便利にするは、目下の急務である、それには購買組合を作つて、その利用を理解せしめ、熟せしむるが大切であり、特に婦人に對して之れが必要であるのである。

### 三、販賣組合

農業が不利であり、百姓が面白くやれぬといふ原因は多々あるも、其主なる原因は生産物の販賣が下手であり、拙劣であり、時勢に順應して販賣方法がとれない爲め

ある。従來の農事改良は、生産に偏重し、多收穫にのみ力を入れ過ぎた嫌がある、農事獎勵の機關といへば、生産の指導機關であり、助長機關が多かつたのである。よく作つた割合によく賣れず、澤山穫ればとるほど損せねばならぬことになつたので、農業は合はぬ、引き合はぬ、儲からぬと考へられた場合が多いのである。

農産物に限つて、生産者が價格を示すことが出来ないで買ひ方よりそれを聞くのである。骨折つて作つて、商人や需要者から勝手にされては、百姓の浮ぶ瀬のないのは寧ろ當然である。それ故に、生産物の販賣に付て進むだやり方をし、時勢に順應した賣り方をするに非らずんば、農業を有利にすることは出来ないのである、其處に多くの改良すべき餘地があり進展すべき餘裕があるから、農業の前途は有望であるとする。

販賣に付て進むだやり方をし、改まつたやり方をするには、産業組合法による販賣組合を設くるが至上の方法である。ものによつては出荷組合によつて、生産物の統一



をはかり、數量をまとめて、それから販賣組合で共同販賣するがよいもある。兎に角よく賣り、よく處分をなし、以て従來得られざりし利益を新に得るには、販賣組合を利用するに限るのである。農民が徒勞の嘆をなさず、又た他より馬鹿にされぬ秘法は巧に販賣組合を利用するに限る、それが爲めに小賣商人は甘い汁を吸へなくなり、ポルことが出来なくなるので、或は共同を切り崩し、或は足並を乱す工夫をする。故に目前の小利に囚はれたり、小成に安んずる様では、農民の經濟地位は上る時はないのである。此點に關する農民の指導啓發は極めて大切である、特に婦人をして此處に悟らしめ、内助の功を輸たさしむるは、正に急務であるとする。

#### 四、利用組合

農村に於て、將來益盛になり、必要を感ずるは、共同の使用利用を凡百方面に應用することであり、經營を共同にして個人力で出来ぬことを出来る様にすることである。衛生的に云へば、産婆の居らぬ所や、醫師の居らぬ所に、之を設備し得るも易ひ

ことである。九増倍と唱へらるゝ薬代を廉くし、且つ効能を顯著にすることも、敢て六つヶ敷ことではないのである。上下水道を設けて、地方病を驅除することも容易に出来る。經濟的に云へば、貨物自動車を持つことも、市場をつくることも、動力及機關を備ふることも、畜力利用を遺憾なくすることも、共同動作をやることも、共同作業をすることも、敢て六つヶ敷ことではないのである。生産的に云へば、共同耕作をやつたり、飼育をやつたり、調製をやつたり、乾燥をやつたり、荷造をやつたり、運搬することも又雑作なく出来る。如斯は産業組合法による利用組合を設けば、何處でも何時でも誰でも、其功德に浴することが出来るのである。

農業經營に一生面が開けるは此方面であり、農業に文化的の活動をなさしむるも亦此方面である。農業をして商工業と對等の經營をなすことにするは、利用組合の活動によると敢て斷ずる。農業の電化、機械化、等所謂舊套を脱して、新らしい時代の經營により、農民をして新民たらしむるは、唯だ利用組合の利用を擴張し、開發するに



限る。此處に目醒めしめ、自覺をせねばならぬは、農村の人であり、特に農村の婦人であるとする。

##### 五 産業組合の經營

法の不備もあり、事に慣れない關係もあり、往々失敗した所もあるので、未だ産業組合の本質を辨へず、功德を味識する能はざるものゝあるは、文明國人としては恥かしい次第である。農村には未だ産業組合を設けぬがあり、設けて尙且つ寶の持ち腐れにしたがあるは、痛嘆に堪へないとする。中には商人のために誘惑されて共同を裏切るもあり、仲買人の奸策に乗せられて馬鹿を見るもあり、疑惑の念に驅られて利用を敢てすることの出来ぬもあり、言語同斷沙汰の限りであると思ふが、それが事實であるを如何にせむやである。

氣のきいた所では、小學校でも子供に産業組合を設け、自治的にやらせて居るもある。故に男でも女でも、反つて子供の方が理解して、親達が理解せぬ奇觀を呈する所

がある。之亦社會教育に於て此邊の指導訓練を欠いで居つた爲めであとる。産業組合のある所では、年々總會が開かれ、其席を利用しての組合に關する講演會が開催されることにより、男子は漸次組合を理解するに至るも、留守居と定つて居る婦人は容易に斯る機會に接することが出来ぬ。其弊を矯正せむ爲めに自覺せる組合では婦人に對する組合の講習講話を開催することになり、それが流行して來たことは結構なことである。然し今日尙多くの組合に於ては此用意を欠き、其施設をせぬ所があるのである。それ故に、社會教育者は此處に新らしい試みをなすべきであり、施設をせねばならぬとする。

昭和二年の金融の恐慌、全國の金融界にモラトリアムを施行したことは、前代未聞のことである。我國家の不幸、我國民の不利は未曾有のことであつた。然し此間に處して獨り信用組合がラチ外に立ちて、平常と變はらぬ支拂をやつたことは、金融機關として信用組合が偉力を示したことであり、農民をして信合組合の價値を知らしめたので



ある。故に此機會に於て、信用組合の機能と徳功とを知らしむるは、指導者の正に努むべきことであり、農村指導者の大に活動を要することなりとする。

都會にある銀行の内容は容易に知ることが出來ず、銀行の重役が如何に放資してゐるやも知ることが困難である。故に薄弱な銀行ほど高利を以て預金吸収につとめ、預金者を誘惑するのである。慾に目のない連中はそれに引きかゝり、不用意のものは其處に預けることが賢い様に考へる。高利で預つた銀行ほど早く潰ぶれ、ポロを出し、預金者に多大の損害を與へたのである。信用組合は組合員各自のものである、従つて内容を知ることが容易であり、理事の人達が如何なる人であるかも分つて居る、而して氣をつけて見れば、調査をして見れば放資状態も分るのである。故に安全を希ふならば、確實を欲するならば、信用組合を作つてそれを利用するに限る、然し何事の上にも除外例はある、多くある信用組合の中にも、不義の人があり、不正の人もあつて、爲めに失敗した例もある。然しそれは當該組合員にのみ損失を與ふるものであるから

累を他に及ぼすものではない。故に銀行の潰ぶれるのと同じに論すべきでなく、銀行の及ぼす影響に比すべくもないのである。故に組合員が信用の濫用をせず、常に相戒しめ、相助けて注意と努力とを各まぬ以上、信用組合にまさる金融機關はないのである。此事實を闡明し、信用組合を理解せしむるは、正に今日にありとする。特に慾にかけて男子にまさりても劣らぬ婦人に對し、此消息を知らしむることは、今日が絶好の機會なりとする。之れ特に此事を説き、此事に注意を促す所以である。

産業組合に附帶して、一言せねばならぬは農業倉庫のことである、倉庫は如何なる貧乏人でも、資本家や地主と同様に倉庫を利用することが出来る様になつて居るから婦人も倉庫の利用を一通り心得て置かなければならぬ。

### 三家 産

恒産あるものは恒心あり、との格言は古今一貫の眞理である。人は事なき時には、



人としての體面を維持し得れど、異變に出遭つたる時には周章狼狽の醜態に陥るものである。之れは經濟上に餘裕のない人、恒産なきものに多いのである。

生活と云へば直に衣食住といふが、今日の場合衣食住に不自由せぬ丈けでは、安定の生活とも向上の生活とも云へぬ。自他を教育する事が出来ねばならず、傷病に對し治療に用意が十分でなければならず。冠婚葬祭の社交儀禮にも缺かない準備がなければならず、家業の擴張進展には資本を投ずる事が出来ねばならず、公共公益慈善に對しても奉仕が出来ねばならぬ。それ故に、人には身代がなければならぬのであり、財産が必要である、家産の造殖が高唱さるゝはそれが爲めである。

家産なきものは、動もすれば節を屈するに至り、操を賣ることになり、甚だしきは人を奪ひ、掠むることをも敢てするに至る。それ故に醜汚の行爲、破廉恥の行動、卑怯の振舞は、家産なき者に多い。されば個人の人格を維持するも、其向上を計るも、家産に待つべきである。同時に家格を維持し、其向上をいたすも亦家産に待つべきで

ある。

#### ◇今昔の相違

治産の道、家産造殖の方法に付ては、説く所に相違なきも、考へ方と行ふ所に相違がなければならぬとする。勤儉貯蓄は、今も昔も大切である、經濟上に目醒めば目醒る程、行はねばならぬことになる。而も昔は、量入制出と教へて居つたが、今日は量入増入と覺悟せねばならぬのである。

西洋人は、文明とは消費なりと謂つて居るが、全く其通りである。文明が進むにつれて、金がかかることになり、物がいることになり、人も使はねばならぬことになる。それ故に、年々歳々支出は増すばかりであるが、収入の増加は思はしからぬが常である。而も収入の以内に支出を制せんとすれば、勢ひ出すことに臆病となり、卑怯となり、吝嗇にもなるは當然のことである。今や世の進歩につれて、公共公益慈善の事業が旺盛とならねばならぬ筈である、それが思ふ様に進展せず、かへつて其處に辨へのない



振舞をなすものゝ多いのは、全くそれが爲めである。

故に今日は如何しても、生活費は如何程を要するや、家業の爲めに如何程を要するやを計算し、それ以上の収入増加をはかるべきである。之れ己が力によりて収入増加をはかることの出来ぬ月給取の權威が縮小されて、それが自由に出来る實業家の地位が向上する所以でもある。

#### ◇實業家と月給取の女房の相違

實業家は勤に積極的でなければならず、月給取は儉に努力すべきである。もしそれが逆になることあらば、社會制度の缺陷が然らしむるものと観すべきである。孰れにしても、勤儉がよく出来れば、收支相償ふて餘裕が必ず生ずる、それが貯蓄となり、家産となるのである。換言すれば、實業家の經濟は、營業の經營によりて上げ得る收益に重きを置くべきであり、月給取は定つてゐる収入の使途に注意して、所謂支出を上手にして残すことに重きを置くべきである。妻は内助者であるが、實業家の妻は、家

業を理解して家業の進展に貢献するがよい妻である、月給取の妻は家政を巧にして儉約上手がよい妻である。

#### ◇僕の境遇

僕は長い間、月給取をやつて居つた、而も當初は随分大きい借金を脊負つて居つた父が死んで間もなく、父に債務があつたとて僕を裁判所に訴へた債權者があつて、まごついたこともあつた。僕は儉約せねばならぬ境遇にをかれ、爲めに儉約に付て研究を餘儀なくされ、金原明善翁や田尻子爵に多大の教訓を受けた。然し僕は吝嗇に類すること嫌であり、特に人との交際を好む性格があるので、思切つた儉約は出来ぬ。さればと謂つて、親類に厄介をかけたなり、兄弟に累を及ぼすことは僕の斷じて禁物とする所である。それ故に、僕の妻は随分苦しむだ、泣くに泣かれぬ思をしたでもあらうが、然しよく堪へた。一面に負債の整理をしながら、一面に殖へる子女の教育をせねばならなかつたが、負債は奇麗に整理をした、子女の教育も人並にやつた。それは



僕の功でなく、多くは妻の功績であることを、僕は敢て告白する。僕はよい妻を得たのである。僕はそれ故に經濟上の苦境から免れ得たのである。僕の社會的活動は勿論僕の努力によるが内助の人が居るからである。

斯る話をすれば、人或はとんだ所で嬖ののろけ話をするに云ふもあらんが、家産の造成、増殖は決して男子ばかりの力では出来ないことを力説せんが爲めであり、同時に世の婦人、別けて内助の位置に在る婦人に覺醒を促がさんが爲めでもある。古の諺に、仕末上手な女房は豊年に遇ふたと同じく

不仕末な女房は百年の饑飢を迎へたと心得よ

とあるが、全く其通りであると、僕の自己の經驗より繰りかへして裏書をする。

#### ◇家産の功德

倉粟満ちて榮辱を知り、衣食足つて禮節を知ることは古訓である。人をして生活に安定を得、向上せしむるも財の貯蓄である。國家をして平和と幸福とを得せしむるも

亦、富の力である。而も富の多くは、國民の努力に因る富でなければならず、國民が勤儉によつて生みし貯蓄であらねばならず國民が經濟的手腕によりて得たる財でなければならぬのである。

世に景氣、不景氣あり、それは山があれば谷があるが如しであり。高い浪があれば低い浪があるが如しである。不景氣によりて収入の減少を來たす場合に於て、常あるは財の賜である。人は病の器であるとの諺があら通り、何時病氣にかゝるか分らず、健康を損ふか知れぬものである。斯る場合靜に病を癒やし、疾を治するも財の力である。其病にかゝらぬ様、養生を遺憾なくするも、衛生の智識丈では出来ぬのである。世の開くるにつれて、誰れでも教育の必要を痛感し修養の大切なるに目醒むるも、財がなければそれ等に遺憾なきを得ぬのである。仕事が増へて多忙となり、生存競争が激げしくなつて憂き事とが多くなれば人は娛樂によりて甦へる必要を覺ゆる。之も財がなければ出来ぬことである。「三度喰ふ、飯にもかたしやわらかし、思ふまゝにはなら



ぬ世の中」とある如く、人は意外の損失をしたり、思はぬ災厄に遇ふこともある。斯る場合、失望落膽をせず、再起を企て得るも亦財の力に待つべきである。

財は萬能の神にあらずと雖も、時には救の神であり、時は天助にかはるものである。財があれば人は、慥に涼しい顔が出来、あせらず、せまらず、裕々乎として落着くことが出来る。故に品も出来、格も具はつて来る。志あればなすことが出来、ない袖は振れぬといふが如き、情ない言は云はずに濟む、貴い哉、財の力、偉なる哉、貯蓄の功德。斯る財此の財蓄を齊家に於ては家産として僕は取扱はんとするのである。

#### ◇家産の源

支那の李俚は、

民生は勤に在り、家道は儉に在り、たゞに勤めて儉せざれば財に餘りなく、たゞに儉して勤めざれば財に源なし、之を此れ不足の道といふ。

と謂つて居る。此故に、勤儉して貯蓄をせよと唱導し、奨励し、鼓吹し、勸告するのである。今日消費節約を八ヶ間敷云ふのも、偏に家道の儉を實行せしめて、餘裕をつくれといふのである。

故金原明善翁は、

初めは力一杯勤めねばならぬ、身體を資本として勤むべきである。儉約によりて餘裕を少しでもつくれば、それと智識とが働いて、益餘裕を多くし財をつくる事が出来る、後には、財が財を生むことになり、利儉増殖を得て、資本と智識とを働かせばよいことになるから身體をつかはぬことになり、樂にくらすことが出来る。

と謂つて居るが、全く其通りである。今日資本家と見られ、有産階級と呪はるゝものは、數代かゝつて其道程を踐むたものである。故に、労働者や耕作者は、徒に資本家を怨むだり、有産階級を呪ふべきでなく、其道程を踐むことが先決問題であるとする。近來、産業組合が普及し、其活動が顯著なるにつれて、各種の目的貯金が流行して來た。曰く徴兵貯金、曰く教育貯金、曰く建築貯金、曰く旅行貯金、曰く洋服貯金、



曰く娛樂貯金、曰く何、曰く何、と。確かに貯蓄機關が出来貯金の方法が明示され、貯蓄が獎勵さるゝにつれて、人は勤儉の志を起し、勤儉にいそしむ事になる。

銀行の破綻は、恐ろしく貯蓄心を阻害せしと雖も其代はり郵便貯金の獎勵、宣傳は到らぬ限もない程であるから、それがためにも、國民の貯蓄心は涵養されつゝある。而も、郵便局が其手續を簡易にし且つ各種の貯金を取扱ふので、益貯蓄心を煽りつゝあるは、家産達成のためには喜ぶべきことであるとす。

二宮尊徳翁は、至誠、勤勞、分度、推讓の四大綱領を掲げて知恩報徳に遺憾なきを得せしめんとし、英國のラスキン氏は正直なる勤勞、公平なる分配、賢明なる消費と唱導して、財の出来る道を説き、出来べき所以を教へて居る。二宮翁が推讓を明示し、分度を説けるは一見識である。ラスキン氏が、公平なる分配を説き、賢明なる消費を教へたるも亦偉いとする。如何に四民平等の世の中とは云へ、有るものゝまねを、ないものがやつたり、役人や月給取のまねを百姓がやつたり商人がやつては、決して賢

明なる消費は出来ぬことになる。貧乏の因は其處に在り、窮乏の因も亦其處に在るのである。今の世にも分限はある。守るべき所がある以上、分度を守ることによりて賢い消費が出来、節約も自ら出来て、財の源を得ることになる。人として此心得がなければならず、家としても亦此用意が大切である。

家業は収入を得る道であり、収入の増加をはかる道である、それは勤勉力行によるべきである。家政は餘す道であり、財をつくる道である。それには儉約節約が大切である。收支相償ふて餘りがあれば、それが多くなれば、のびる身代ともなり殖へる財産ともなり、つかはねばならぬ資本ともなるのである。日本人の弊は、得ることに急にして、餘す道にうとく、取ることばかりにあせつて、消費に愚なることである。此のやり方は、底のない桶に水を入れるが如く、穴だらけの籠に砂を盛るが如きであつて、勞して効なきものである。宛然屁を放つたと同じで、何等残るものがなく、唯だ音と惡臭を感じるのみである。



### ◇家庭の種類

昔は、地はやけず、盗られず、流れぬものなれば、一番固いよい財産と見做されたものである。之れ世に地主が出来た所以であり土地の價格が高くなる所以でもある。其後、信用證券が出来る様になり、又た各種の事業が勃興するにつれて、會社や銀行が出来るにつれて、株券が発行され、それ等が家産として重用されることになった。加之、預金や貯金の獎勵が盛になり、それ等の機關が普及するに従ひ、著るしく預金貯金が家産とするものが殖へて来た。

物々交換がすたれて、貨幣が權威を生ずるにいたり、金に對する國民觀念は、いやが上にも増長し、一にも金、二にも金、三にも金、死ぬでも金といふことになり、金を過信して之を得むが爲めに手段を選ばぬことになった。金錢慾が煽られて、遂に黄金萬能と心得るものが多くなり、それよりも貴いものゝ存在が分らずなり、金力の及ばぬものゝあることに氣がつかぬことになった。それが爲めに、農業が賤しめられ、

農民生活が忌避され、農村の疲弊、農家の困憊が助長されることになったのは、淺間敷ことの限りであり、情ないことの極である。

健康なる身體、頑健なる筋肉、それは勤勞の精神に伴はなければならぬは勿論なるも、立派なる財産であり、資本である。勞働者や耕作者が唯一の財と頼むべきはそれであり、資本とすべきも亦それであるとする。智識と技術とは、目には見へぬ。故に財とするは經濟學上許さずといふかも知れない。が事實上よりすれば、立派な財であり、力強き資本であるのである。専門的の智識が重用され、人一倍常識の發達せるが重寶がられ、熱練職工や技術に堪能なる者が、多くの報酬にありつき、待遇がよいのは、何よりの證據である、又た信用は世の進むにつれ、進むだ事をせねばならぬことになればなる程、恐るべき有力なる財であり、資本でもある。一片の紙切れでも信用すれば、信用せねばならぬことにすれば、百圓、千圓、萬圓、の價值を生ずるのである。まして、萬物の靈長たる人が、信用を得れば、千萬億の金をも融通が出来ること



になる。現に神戸の鈴木婆さんは、數億の金を融通して天下に名をなしたではないか  
恐るべきは信用であり、信用の力である。

僕は學者でないから、學問上のことは分らぬが、事實に立脚して云へば、健康も家  
産であり、智識技能も家産であり、信用も亦家産であるとする。それ等を獲得し、そ  
れ等を運用して妙なるを得ば、敢て土地を要せず、債券を要せず、株券を要せず。預  
金貯金のなきを憂へんやである。然し、鬼も金棒を持たぬでは戦ふと不利であり、武  
士も刀を持たぬでは不便であると同様に、土地を所有すれば便利であり、家があれば  
尙更便利であり、公債や株券があれば心丈夫であり、預金貯金があれば心配がなくな  
る。故に無形の富も大切であるが、人は有形の富を持つべきであり、經濟上の財をも  
持たねばならぬとするのである。

昔は、齊家の標準として、三具の整備を教へたものであるが、今日でも同様である  
曰く業具、家具、客具は備へねばならず、よりよく、より進むだものを描へて置かね

ばならぬとした。業具とは、家業に要するものであり。武家としては弓馬刀鎗であり  
農家としては鋤鎌は勿論、耕作の牛馬、それに伴ふ器具機械、灰小屋、厩舎の設備等  
である。家具とは家族の生活に支障を來たさぬ器具や道具の用意をすることである。  
客具とは社交儀禮に事欠かぬ様、接客の場合、饗應の場合、贈答の場合、舉式の場合  
になけねばならぬものを備へることである。世の進むにつれて、業具はかはつて來、  
殖やさねばならぬことになり、改良を要し、進むだものを用ゐねばならぬことになる  
家具も亦然りて生活の向上につれて文化的にせねばならず、不自由不便を感じまいと  
すれば、用意は一通りならぬことである。客具は今日共同の施設によりて、其煩を避  
け其他冗費を節すべしとのことであり、其試みも出來つゝあるが、然し、何處でも一  
通りの設備がなくては不便であり無禮にもなるので、若干の準備はなけねばならぬも  
のであると信ずる。

#### ◇家産の造成



家産造成に就いては、家産の源に於て説きたる事を嚴守すべきである。其守るべき所に立ち、其守るべき道を踏むで造成すれば間違はないが、然らざる場合は必ず失敗に終はると覺悟すべきである。而も今日の世は、金錢獲得の慾に驅られたり、家産造成の事に急なるため、則を超へ、道を外にする傾向がある。成金が成貧に化し、名門舊家がもろい倒れ方をするのは皆それが爲めである。

金を預け、貯金する場合にも、利息の高いを有利と解し、高利をあさるが多い。此弱點に乗じて、不確實であり、悪辣である金融業者は、高利を着板にして預金貯金を吸収せむとする。慾の深い連中が之れに引きかゝつて、本も子も臺なしにする例は、此處彼處に枚擧に暇がない程ある。貯蓄銀行や貯金を取扱ふ銀行の破綻、支拂停止に際會して、痛い目に遇ふた當時は自覺するも、喉元過ぎれば暑さを忘るゝ諺にもれず程ふれば再び災厄を味ふが、慾の深い連中の常である。戒しむべき事であり、恥すべき事でもある。

人に一定の務めがあり、家に定業がなければならぬものである。務に眞面目に勤め業に忠實にして、無駄のない生活に心がけ、賢明なる消費に怠りなくば、必ず餘裕が生ずる。其餘裕こそ正當の家産であり、斯る所に純眞なる家産造成を見るのであるが之れに満足せず、之れをあきたらずとして或は相場に手を出したり、或は株を買つたり、或はブローカーに類する事をやつて、破産、倒産、をさへするものゝあるは此處に在る。前車の覆るを見て後車は戒しめねばならぬが、慾の深い連中は、同じ道を踏むで失敗し、同じ穴に陥りて憂目を見るは、氣の毒であるが慤れむべきである。牛歩に等しきが、家業による家産造成の本體である、而もつとめて倦まざれば、やがて大をなすが常である。其間には數百年を要するもあり、數代を要するもあるが、斯る處には自ら家風が生じ、不文律の家憲さへ生じて、所謂家格を見るに至るものである。斯る名代、舊家が一朝にして、破産倒産、然らざるも家運傾きて悲哀を感せしむるあるは、盡く慾にかかれたり、横道にそれる結果である。



成程、世には相場で儲け出したものあり、株で成金になつたものもある。然しそれ等の人々は特種の才能技術のある事を知らねばならぬのである。其處を見る能はずして徒に成功、成金をのみ見て、それに擬せむとするは、蓋し愚の極である。

僕は、度々言明せしが如く、貧乏士族と生れて、而も父の尠からぬ負債を相續したものである。父は氣の毒であると氣兼ねしたが、僕は激勵の資を賜はつたと喜び、感謝の辭を申し上げたものである。妻帯せし當時は、負債償還の爲めに苦しむで居つた、それ故に妻に對しては氣の毒であつたが、妻はよく理解して僕と共に償還の道につくして呉れた。子供が生れるに及び、女子のためには結婚貯金をなし、男子のためには大學貯金をなし、それがためには僕と妻とは極度の儉約をした。然し他に迷惑をかけず、他より吝嗇と侮られぬ用意をして、交際は人一倍派手にした。五人の子供のためは随分苦勞をしたが、一面俸給が増して來、遂に家屋建築の爲めに貯金する事にした之れは僕が勤續十年記念のために、卒業生と町民とが家屋と土地とを贈られた御蔭で

ある。今日では、僕等夫婦の葬式貯金をして居るが、其他は社會奉仕と心得て出來る丈け、社會の御用に提供して居る。僕には誰れが勘定しても分る財産しかない、然し不自由はせぬ、それは、僕が二十年の間天職として居つた職務を退いた時、愛知縣民及同窓會（安城農林學校）が僕に尠からぬ金を贈呈してくれた賜である。斯る經驗を踏むでる僕は職務に忠實であれば財に恵まるゝものである。天職に懸命の努力を輸せば産を造る事が出來ると、主張し、唱導する自信を持つ事が出來たのである。

家産造成に付て、見逃がす事の出來ぬ事は、婦人の心がけであり、態度である。男子をして不義の財を求めたり、不正の金を貪るに至らしむるは、婦人の虚榮とだらしのない態度によるが多い。故に僕は、金儲けを稻荷さんに祈つたり、幸運を御頼みするものには、何時も傍に座つてるお神さん女房に願かけをするに限ると謂つて居る、全く、妻は内助の君であり、一心同體の働きをするものであるあら、家政に手腕ある女、賢明なる消費に勘能なる婦人、夫の缺點を補ふ妻君は福の神なりと貴ふべきであ



るとする。江州商人の奇傑塚本定右衛門氏に、藍綬褒章を賜はりし時、同氏は之は女房に與へられたいと告げたとあるが、流石は江州商人の霸王となりし人丈けあつて、分つてると感心した。

#### ◇家産の使途

家産は貯へむが目的でなく、殖さむが目的でなく、其の巨大を輸さむが目的でもない。家産は使はむが爲めのものである、有効に用ゆるが目的である。僕は、常に之の使途を明示して居る、曰く

資本化——事業化  
家産貯蓄——人格化——資格化  
社會化——民衆化

之れが分らぬで、ためる事に趣味が生じ、貯へる事が面白くなり、使途に吝なるに至つては、或は使途を誤る様になつては、貯蓄は呪咀の的となり、家産は衆怨の府とも

なり、自他を損ふ事になる。南洲先生が子孫のために美田を買はずと、戒しめられしは、其弊を教へられ、其害に陥らしめざるが爲めである。

我國は、貧乏に於ては確に世界の一等國であり、而も周知の事實である。故に我國程、勤儉貯蓄の必要なる國はない、勤儉貯蓄にいそしまねばならぬ國民もない。之れ政府が何度代はつても、勤儉貯蓄を奨励し、之れに最善の努力を輸す所以である。全く勤儉貯蓄の聲は耳に「たこ」が出来る程、よく聞く事であり、目に見飽く程其宣傳ピラを見る事である。而も其の實行が聲程になく、宣傳に伴はぬは、貯蓄の目的を教へず、貯蓄の使途を示さぬからであるとする。

世の中には、汚いもの、三幅對といふがあり、其一は、尿壺に尿がたまればたまる程汚くなる。其二は、タン壺にタンがたまればたまる程汚くなる、其三は、金庫に金がたまればたまる程汚くなる、との事である。切角、勤儉力行して貯蓄を作る場合に尿壺やタン壺と同一視されてたまつたものではない。然し、金の出来ぬ内、金が貯ま



らぬ間は、金に執着が比較的薄いが金がたまりかけると、出す事に臆病となり、吝となりて、出す相談には加はるまいとし、出す話には乗るまいと用心し、果ては袖から手も出さず、喉から痰も吐かぬ事になるが、世に多く見る例であり、習である。成金が出来て公共の事業が進まず、金持、物持、地所持が居つて公益事業が捗らず、財産家が居つて慈善事業に見るべきものがないのは、全く貯蓄の使途が分らず、家産の處理を知らぬからである。其愚や慙むべしと雖も、爲めに貯蓄心を害ひ、貯蓄や家産を呪ふ事になるは、我國家の禍である。之れ故に、貯蓄の使途を明かにし、家産の處理を教ふるは、目下の急務であるとする。

### イ、資本化

如何なる事業にも資本を要するは分りきつた事であり、周知の事である。事業には種類があり、方面があるが、次の生産のために準備するゝが資本であるといふ以上、資本は生産のために使はるべきであり、生産の用に供せらるべきである。家産が眞面

目なる生産業のために、其改良、其擴張、其進展のために使はるゝならば、資本も恐怖せぬ筈である。

土地を持ちて居る人が、土地の改良、整理、肥培に資本をかければ、土地を利用するものは、喜ぶべきであり、歓迎するが、我國の地主には、そうした使途を遺憾なくするものが尠い、之れ地主が動もすれば耕作者や使用者の恐怖の的となる所以である。

工場や製作所やそれに類するものゝ所有者が、其内容の改善に、其處に働く人の待遇改善に、機械、動力其他に最新便利な設備を怠らぬやり方をすれば、勞働に従事するものは、誰れでも喜ぶ筈である。而も資本家には斯る事に比較的冷淡にして、徒に私慾に驅らるゝものが多い、之れ資本家が呪はれ、脅威さるゝ所以である。

財産家の財産は、國家の擁護に負ふ所が多く、社會の進歩によつて利する所が尠からぬものである以上、公共、公益、慈善の目的であるは別としても、眞面目に自己の



業務にいそしむが出来、其の進展に努むる事が出来れば、社会は其存在を喜ぶのである。而も財産が相當に出来るにつれて、多くは家業を人に任せたり、廢業して金利によりて徒食蟄居を事とする。之れ財産家が社会的に存在を認められず、甚だしきは其存在を呪咀する様になる所以である。

地主や財産家や資本家と稱せらるゝものゝ多くが、自己の業務に對して趣味を持たず、責任を負はず、執着せず、徒に利得のためしたり、あるが上にもある様に、持つが上にも持つ様に、慾のために資本をかけるは、悪い慮見である。天職と悟れば、眞面目に資本の投下が出来ねばならず、自己の事業を愛するならば、其改善や擴張に資本を吝しむべでない。自己の業務を通じて、國家社会に貢献せんと欲するならば何處までも其事業の進展に資本をかけねばならぬ。國家と社会の恩に悟りて、それに感謝報恩せむとせば、自己の業務の向上に資本を吝しむではならぬのである。今日の資本家、事業家、財産家には、氣質によりて認めらるゝが尠くて、根性を發揚するが

多いのは、我事業界の振はざる所以である、我生産界の萎微退嬰する所以である。

銀行が破綻するのは、重役が生産業に資本を提供せずして黨費に貸出したり、銀行當然の業務に使用せずして自己が利慾の道に費すからである。事業家の失敗も事業のために資本を費すでなく、慾張つた方面に金を支出するからである。農村に於て、地主の存在が六づケ敷なるのは、農業に資本を投下する事をせぬで、利慾の方面に家産を差し向けるからである。資本の使用を誤るものは、やがて事業に倒れるものであり社会的にも倒れるものである。當人には自業自得ならむも、之れは當人のみを損ふに止まらず、他に累を及ぼす事の甚だしい事を思はねばならぬのである。家産の使途は正しき資本化であらねばならず、眞面目なる資本に使はねばならぬのである。

#### ロ、人格化

恒産あるものは恒心あり、とは古い格言であるが、何處でも新らしい事實となるものである。家産が出来るにつれて慾が深くなり、かへつて品格を惰すもあるが、然し



大體に於て一定の家産がなくば、氣品も守操も見識も出来るものではなく、其處に認むべき家風や家憲も出来る者ではないのである。

社交儀禮に事を缺かぬ様にするも家産がなければ出来ぬ事である、自己は勿論子女の教育修養を遺憾なくするも亦家産に因る事である。衣食住にも見ぐるしき事をせず時勢に順應が出来るも、家産がなければ出来ぬ事である。疾病に對し遺憾なき治療を受け養生を靜になし得るも家庭によるべきである、不時の災厄に遇ふて其損害を回復するも家産の力による事が多い。貧すれば鈍すと云ふが、貧が愚を招くは社會の現象に於て、何時でも見得る事である。家庭の不和、社會の争い事は、多く貧から生れるが多いのである。故に家産は人を賢明にするものであり、幸福にもするものと斷ずる事が出来る。

然るに世には家産の使途を辨へず、あるにまかせて之を不正不義に使用するものがある。或は驕者に之を使用し、或は遊蕩に之を支出し、或は道樂に之を消費して、自他を害ふものがある、何の不自由もなき邸宅を持ちながら別莊を持つて見たり、何の業務をもなさず、毎日粉飾を事とし虚榮に浮身をやつしたり、立派なる妻君があるにも關らず妾を持つて見たり、或は酒に、歌舞に、或は遊興に、或は骨董に、或は投機に、或は政治に私慾を満足せしめむとする事に家産を使用するのである。之れがために世の反感を買ひ鬭争氣分を煽り、呪咀の目標となり、果ては直接行動まで誘引する例は、到處に見らるゝのである。

資本家が労働者の反感を買ひ、地主が耕作者から呪はれ、財産家が無産階級から憎まるゝに至るは、家産の使途をあやまる事に起因する場合が多いのである。古語に、勤者は人に驕らず、儉者は人を奪はず、とあるが至言である。勤儉の風が嚴存すれば家産の使途は正當ならざるを得ぬ事になる、それを嚴守すれば、家産の支出は正當にせねばならぬ事になる。我國には家産を造る目的が、樂に暮さむがためであり、蟄居せぬ爲めであり、我儘勝手なせむがためであり、氣づい氣まゝをせぬが爲めなるが多



い。従つて財に制せられぬ自由の立場に立ち、何物にも犯されぬ自由の境遇に立つ事に氣付かぬが多い。之れ、家産が人格化せず、家格化せざる所以であり、我國の通弊であり、恥辱であるとする。

我國に於て社會の風紀を亂だすものは金持に多く、地主に多い。綱紀を紊亂するのは社會上に地位を有するものに多いは、蓋ふからざる事實である。之れ家産の人格化に目醒めず、此事に努むる事が出来ぬからである。

#### ハ、民衆化

古から四恩が教へられてある、曰く君主の恩、父母の恩、師の恩、衆生の恩は知つて、之に報ゆる所がなければならぬと。主權が立派でないと、昔の朝鮮の如く、今の支那の如く不安に陥り脅威の裡に暮らさねばならぬ事になる。父母の教養なくば、世に成人が出来ぬ。師に接せざれば蒙を啓き、愚より超越する事が出来ぬ。衆生の御影で不自由のない生活が出来、一切の用を辨んずる事が出来るのである。されば、何時

までも四恩は忘れてならぬ事であり、忘れまじきは四恩である。

又た人は環境に制せらるゝものであり、環境をつくるも亦人である。春になれば暖に覺へ、秋になれば涼しく感じ、それに順應して更衣する、氣持もかへる。嚴冬に蒸氣を通して寒さを知らず、猛夏に煽風機を備へて暑を減するも人のする所である。世が進めば進むだ生活が自ら出来、人の努力によつて世を進ませる事が出来る。よい社會も住むで心持よく感ずるが人であり、人の努力でよい社會が出来るが、人の世の中であるのである。

故に知恩報徳の道よりしても、よい環境を迎へ、進むだ社會をつくる上よりしても家産の一部は、公共公益慈善の方面に推譲する事が出来ねばならず、社會奉仕の家産が役立たねばならぬのである。二宮尊徳翁は年々の餘裕から四分の一丈は、之れを社會に奉仕せよ、推護せよと主張して居る。そうする事が出来ぬでも、必ず貯蓄の一部は之を社會に捧げる事を敢てすべきである。各人に其心得があり、其實行が出来れ



ば社會は必ずよくなり、進むで來、自他の福利が増進されるのである。

道路がよくなれば道行く人は盡く喜ぶ、圖書館が出來れば誰れでも書物や雜誌を讀む事が出来る。産業組合が発達し、農業倉庫が普及すれば、農村の不便不利も除かるゝ事になる。公設浴場が出來、慈善病院が出來れば、無産の人でも衛生的に心配はいらぬ事になる。如斯施設、事業は、働く人に便利を與へ、貧しき人に幸福を與ふるが故に、社會政策としても必要である。あるものゝ自由がないものに願たれ、持つて居るものゝ幸福が持たぬ人にも及び、強いものゝ利益が弱いものにも與へられ、賢いものゝ喜が愚なるものにも味はるゝに至れば、蓋し社會の平和、人類の幸福は、何處でも招來さるゝであらう。之れ、家産が民衆化せねばならぬ所以であり、公共公益慈善の事業に家産の一部が推護されねばならぬ所以である。

然るに我國に於ては、徒に國家の力を依頼したり、自治體の自治に任かせて、民衆の力で社會をよくし、環境を進めむとする自覺がなく、従つて其努力が足らぬ憾があ

る。我國には富豪や大地主によりて出來た公共の營造物が極めて尠く、公益事業も少く、慈善事業も見るに足らぬは、全く情ない事である。人は人、我は我なりとの個人的觀念に囚はれて、四海同胞の義に悟らず、徒に利己主義に驅せて、共存同榮の義に通せぬは、歐米諸國に比して恥すべき事である。勿論我國には親類が助け合つたり、友人が助け合ふ美風はあるが、更に財の民衆化が出來れば、錦上添花を添へるのである。其處に遠慮すべき何の理由もなく、引き込み思案をする必要もないのである。之れ、今日社會奉仕なる言辭が流行する所以であり、流行せねばならぬ所以である。

#### ◇家産と相續

我國は家族制度の國であるが故に、家督相續も財産相續も長男がする恒例である。女は外部へ嫁にやり、二三男以下は冷飯連中と稱へられて、財産相續には惨じめな境遇に置かれたものである。爲めに兄弟の間に見苦しき相續争が生じたり、財産の分配争が出來たりしたものである。近時其弊を矯めむとて、法律の改正があるとか云はれ



て居る。

長男は財産の相続が出来ぬ故を以て安定の地位にある、故に發奮興の精神に乏しく、従つて努力が出来ない傾向がある。之れ總領の甚六の稱ある所以である。之に反して次三男以下に生れしものは、自力で成名成功をなさねばならぬ境遇にあるから、古來人物は多く之れ等の人に出来る。故に家産はなければならぬものであり、なくともよい感じもする。

紀州の土井家は古い家であり、名門であるが、十萬圓の借金は絶やすなどの家訓があるといふ。蓋し相続者に油断をさせまいとの用意である。尾張の東春日井石崎氏は相続者は家祖の財産を預つて行くものである、故に利息を祖先に拂はねばならぬとし財産に手をかけず、之れを殖やしつゝある、之亦相続者が財産を私せぬ用意である、如斯して始めて、家産の功德を永遠に見ることが出来、家産の功德を守ることとも出来るのである。

金原明善翁は財産相続者と事業相続者と精神相続者と、相続を三方面に分つことを主張した人である。翁の相続者には父祖傳來の財産を相続せしめ、翁の努力によりて得たる多額の財産は、各種の事業を繼續遂行せしむる爲めに財團法人にして適當の管理者を選定せしめた、同時に到處に翁の精神を相続する人物を造つたものである。明治の御代に於ける民間の奇傑丈けあつて、其用意の周到なるを知るべきである。翁は常に曰く、親が二十貫目の荷物を脊負ふて歩むからとて、之を子に強制することは出来ぬ、子に力がなければ、二十貫の荷物を脊負はすれば、或は腰がくだけ、或は潰ぶれて怪我をする。子を知り、子を愛する親は、それは出来ぬことである。故に子に相続せしむるは、親の慈悲であり、子の力相應の財産を興へるは親の恩愛であると、全く立派な見識である。天下の富豪や財産家が之に則り、之に習へば、我國に於ては、今日より以上の事業の進展を見るであらうと信ずる。惜しいことであり情ないことである。



中には借金を残こされ、負債の相續を餘儀なくさるゝがある。之が爲めに限定相續を主張したり、相續を忌避したりするもある。僕の知つてゐる人に、或る工場の事務員を勤むる者がある。親の死去に際して、一文の家産もないのに十六萬圓の借金が残こされたことを知り、途方にくれたものがある。如斯は限定相續をするが、家名相續丈けですますより外致方はあるまい。僕は親の借金を八千圓相續した、親が氣の毒がつて居つたが、僕は發奮の資本だと云つて喜むで相續した。而して一番に家と宅地とを賣りて何分の償還をなし、それから傳權者を戸別訪問して、僕の借金としたからは利息は取らぬことにして貰ひ、年賦償還の方法を立て、十年餘りに奇麗に始末をした。爲めに月給取にありがちな放漫なやり方もせず、餘計なものを買つたり、備へたりすることもせず、謹嚴なる先生で世渡りが出来ることになつた。之は、負債を相續した賜であり、結果であるといひ得る。故に一定の負債は喜むで相續すべきであり、之がために悲觀し、愚痴を云ふのは慎むべきことであるとする。

僕は自己の體験に徴して、僕の相續者には多くの財産を残さむとはせぬ、それ故に僕は家産を造るに熱心ではない。女は力ある男に嫁がしめ、男は世に獨立して行ける力をつけてやればよいと考へ、其方針で今進みつゝある。金はお足と古から謂つて居る。來る様にすれば來るものと信じて居る。既に足を知るの境遇に立ち足るを知つての生活に落付て居るのである。祖先より傳はりし家産のないものゝ覺悟は、正に斯くあつて然るべしと、わがすきは人に振舞へとの古訓により、敢て僕の如き人々へ告白する。

#### ◇家産と生活

家産は生活を左右するものであり、制限するものでもある。家が古く、家風の生せる所に於ては、家産は落着いた生活をなさしむるものであり、生活の安定を輸するものである。大なる家産は必ずしも贅澤に導くものでなく、寧ろ質實なるが恒である。俄分限、成金の徒は大なるに慣れない、故に締りのない生活に陥り、放漫に流る。之れ



世間より輕視され、侮辱され呪咀さるゝ所以である。

家産は使途を明かにし、之を守つて驕らざれば、家庭に争はなくなりて圓滿になるが順序である。家族は各其分擔に努めて懈怠虚榮に囚はれぬ爲めに、家内に緊張の風が生じ、共同一致の美風が生れる筈である。生活の様式が整備するによりて、不便不自由は比較的でなくなる勘定であるから、面白い日暮らしが出来ねばならぬことになる環境より存在が認められ、周囲より存在が歓迎されば、安心して生活が出来る道理である。清く、正しく、面白く、平和に暮らし得るは、家産の功德であり、之れが使途をあやまらぬ恩恵であるのである。

恒産あるものは恒心ありと云ふが、家産があれば齷齪せぬでくらせる、靜に世の中を見ることも出来る、我が大和魂を養ふ事も出来る。我國民性を陶冶する事も出来るのであるから、古人我を欺かすと謂ひ得る。全く家庭は教育の道場であり、修養の殿堂でもある。家産があり、家産が動かぬ家に於ては、神棚の設備があり、佛壇の室が

ある、主人が毎朝拍手する響が家内に鳴り渡り、佛壇の前に言經の聲が聞ゆる家に於ては、自ら祖先崇敬の念が湧いて來、皇國精神が萌へ出る思がする。一日十五日に赤飯をたき、神酒を用意して、之を陛下の御眞影に位へる所に所てに、不言無語の裡に我大和魂を養ふことが出来る。年忌の祭事、佛事が怠らず出來、墓參り、宮詣で、伊勢參りが出来る家に在りては、如何せぬでも日本國民の性情が表はれ、養はれ、鍛はれるのである。此意味に於て、一定の住所に日暮らしの出来る、一定の家産の下に住居を動かすにすむ家は、貴いものであり、大切なものであり、重んずべきものである之れ齊家が國家のために唱導さるゝ所以であり、齊家の必要に目醒めねばならぬとする所以でもある、同時に、家産の存在と必要とを鼓吹せざるを得ぬ所以とする。

我國に於て、近來の不祥事は、名門名家の潰ぶれることである。家風が嚴存し、家産の使途がよくて、世の人に存在を認められ、其存在が歓迎されて居つた家が著しく減することである。教育の弊によりて禍さるゝもあり、生活様式の變化につれて順應



を誤るもあり、經濟に刺撃されて私慾に迷ふた結果なるもあり、不心得の子孫が出来た爲めなるもあるが其何れにしても、舊家が潰ぶれ、名門の倒れるは、我國家の一大不幸である。僕は、名門舊家の人々に特に自重を衷心より希望すると同時に、社會の人にも共同責任のあることに自覺せぬことを切望するものである。古い御宮も大切にあり、寺も大切にあり、古い樺木も大切にあり、景勝の地も大切にあり、更に大切なるは古い家であり、名ある家柄であるのである。

我皇室の尊嚴は年を追ふて加はり往くは我國の誇りであり、我國民の喜びである。古い國古い皇室を擁護するには、古い民家がまもるであらねばならず古い歴史を持つて居る國民の家がなければならぬとする。僕は、家屋を云ふのではない、建築物を意味するのではない、家産と家風と家系とを云ふのであり、精神と血液との純眞を保存すべしとするのである。華族は皇室の藩屏なりと云ふが駄目である、今の華族は年を追ふて存在が認められずなる。舊藩の人にさへ没交渉となり、認められずなりつゝあ

るではないか、轉々として浮き草生活をなす月給取りの連中も、頼むに足らぬ、彼等の浮き草生活には、家産は出来ても落付た生活が出来ぬ、家風が出来ぬ、思ふて茲處にいたれば、都市に於ける商工の家で、長くつゞいて居る家、農村に於て數百年の相續を全ふせる家は、全く我皇室の藩屏として自重して貰いたいのである。

世の中には、氣の毒ながら家産をもたぬ人が多い、それが益々多くなる。家庭生活を味識することの出来ぬ人が多くなる。それだけ我國民性が衰へ、我皇國精神が消へ我大和魂が雲り勝になる。それは、我國家にとりては全く由々敷大事である。それ故に家産はつくらねばならぬ。故に勤儉貯蓄は鼓吹せねばならぬと同時に、家産あるものは其使途に注意して、名門名家となる生活をせねばならぬとする。

近來著しく變化して來たのは生活様式である。自給自足の農村でも凡てを他に求めねばならぬことになり、それが便利になつて來たのである、故に流行を追ふまいと思つても流行のものをを用ゆることになり、派手なことをすまいと考へても派手にならざ



るを得ぬことになる。加之、物品が殖へるにつれて、餘計なものも持つことになり、改良や發達や進歩と云ふ裡に、自然とよい物を用ゆることになり、従つて都鄙の別は漸次少くなり、貧富の差も姿を見て居つては分り悪くなる。其處へ以て來て、四民平等の觀念が強くなり、當年惨じめな暮をして居つたものほど、生活意識が明瞭になつて來たから、生活の様式は著しく向上して來た。其處には費用の支辨が高まり、増加するばかりであるから、収入の少きものや、家産のない者の悩みは深刻になつて來るは當然である。

交通機關が開かれて來れば來る程、外出の機會は多くなつて來る。従つて虚榮に陥り易く、虚樂の競争もはげしくなる。昔に比して、交通機關を利用する費用が増加して來たのは勿論であるが、それによりて虚榮が煽られ、それに用する費の高まり來つたことに想像以外のものがある。

二重三重の生活は改めねばならず、廢せねばならぬと、誰れも謂つて居ることであ

り、何人も其弊に堪へないで居るが、然し益々それが甚だしくなり、其弊が擴大するゝが現狀である。生活改善が唱導され、生活改善會まで出來て來たが、反響があるや否やが分らぬ。唯生活難を訴ふる聲のみ高くなり、生活難に苦しむ者が殖へること丈けは明瞭である。

生活に悩み、生活に苦しむ結果は、生活せねばならぬ世の中に生れ出したことを呪ひ嘆きて、親に文句を云ふものもあるとかや、社會に起る慘劇の多くは、生活難が生むことであるを思へば、生活が問題の中の大問題となるも、亦當然なりとする。

此處に我國民の大覺醒を要し、我民族の大自覺がなければならぬとする。生活が家産によりて左右さるゝ以上、制限さる以上、家産に對する觀念が養成されねばならず家産を造成すを努力も加はらねばならず又た家産の使途に付て遺憾なきを期せねばならぬとする。

或る人が日本人の現在の生活の様式を評して云ふ事に、日本は恰も、世界中の衣食







べきである。

僕は貧乏士族の家に生れ、借金の相續したものであるが、略三十年間の俸給生活中に、借金は奇麗に返済し、兄弟の學資は出し、子供を一人前に育て上げ、月給離れをしても、敢て人に憐れみを請ふが如き態度をとる必要はないのである。用心をすれ家産は出来る、眞面目に心の約束が實行し得ば家産は遺す事が出来るとの信念に、今や生きつゝある。

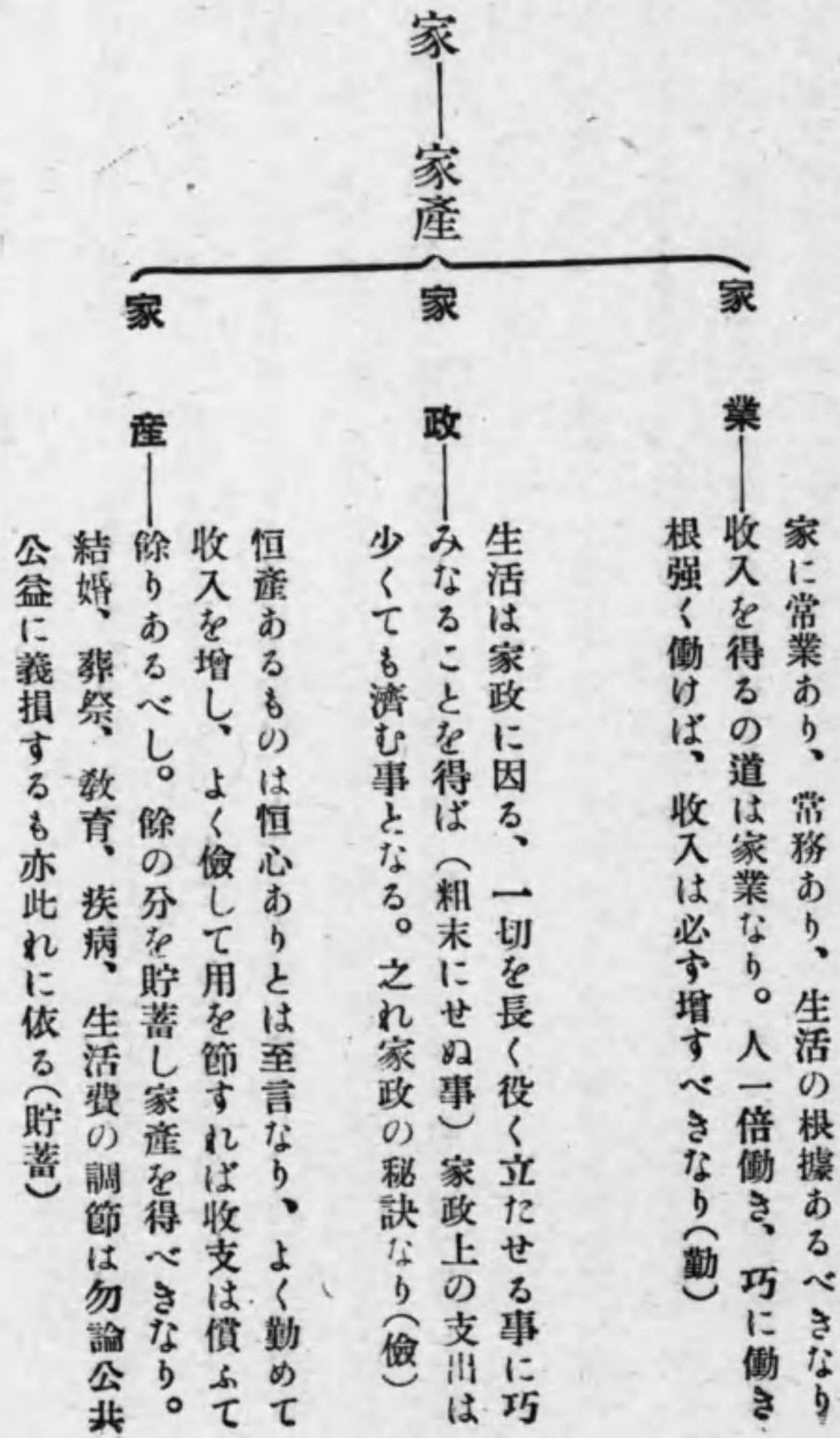
僕の長男は不慮のけがで病人となつた、何んともして快復せしめむとて、四人の病院長に診察を頼み醫士の云ふがまゝに特別の施術をもした不幸にして其甲斐なく死亡したが、僕は盡くせる丈けの事をつくし得たので、何の遺憾もなかつた。それより先きに父を喪ふて、葬式は禮を失はぬ様に丁寧によつた。暴風雨で家屋が大損害を受けたが、之れも立派に修繕をやつた、友人の不幸を救はんが爲めに尠からぬ金を出した事もある。教へ子の依頼によりて借金を始末してやつた事もあり、全くの他人であ

るが、氣の毒に思ふて學費を出してやつた人は十人以上はある、故に始末よくせば家産は出来る、一時減つてもやがて回復する、金原明善翁が曰はれた様に、或程度に達すれば家産が家産を生む様になる事も、僕は経験して居る。

とるに任かせて使ひ、入るに油断して遣ひ、何時でもとれると思ひ、何時までも入るものと考へ、其使途に用心せず、家産造成に計劃を立てぬは悪い慮見であり、不心得千萬であるとする、月給取に不慮見の人が多く、不心得のものゝ多いは、我國の恥辱であるとする。此點に留意し用心すべきは、月給取の女房であるとする。今日月給取か醜態を演じ、甚だしきは犯罪を敢てする裏面に虚榮の女房が居り不始末の女が居るは、何人も認むる所である。よい女房は百年の豊年を迎へたるが如し、悪い女房は百年の饑飢に遭へるが如し、とあるが全く其通りである。それ故に災害の尤も大なるは悪い女房を持てる事であるとする。僕は女子婦人に自重を希ふ事の切なるものである。



家産に就て尙述べたい事があり、述べべきでもあるが、聊かだら長くなつた嫌がある故に、此處で擱筆する事にする。物質主義の世の中である今日は、家産の必要を感じる。而も家産は相續するよりも、造成すべきである。支那の李俚が曰つた様に、民生は勤であり、家道は儉である。勤によりて収入の確實と増加とをはかり、儉によりて支出の率の減少をはかれば、貯蓄は必ず出來、家産は自ら出來る。之れ今日、勤儉貯蓄が絶叫さるゝ所以である。而も人心は動もすれば正道を賤むを面倒なりとし、拙なりとなし、愚なりと排し、近道を取つて不義不正の手段をとらむとするは馬鹿げた事である。更に驚くべきは、それを賢いやり方と解し、伶俐な人のなす事の様に見えるもあるは、沙汰の限りである。之れ僕が敢て家産編をかゝげて長講述をした所以である。讀む人之を諒とされたし。





## 結 論

家は社會生活の發端であり、初歩である。齊家の道に悟りて、社會生活の要諦をつかむ事も出來、國家生活の眞諦を握る事も出来る。加之、家は生命の發源地であり、愛の巢ごもりが出来る所でもある。故に齊家は、人生の幸禮を招來し、社會と國家の基礎をかためるものである。然るに昔にありて修身齊家治國平天下を提唱し今日の如き生活の範圍が擴張されて反つて齊家の道の閑却されつゝあるは、蓋し奇怪である。

( 266 )

今日人智日に進み、世は開化すと雖も、家をなす能はず、家を齊ふ事の出來ぬ不幸の人が、日に多きを多ふるは、悲しむべき社會現象であり、聖代の恨事である。僕不敏なりと雖も之を憂へて齊家の棊をかく事にしたものである。要するに一面治國に貢獻し、一面世界の平和に寄與せむが爲めであるのである。

僕は齊家の三要素として、最初に家系編をかき、中途に家庭編をかき、最後に家産編をかいた。家系を正ふして生命を永遠にし、家庭を圓滿にして人生の幸福を味ひ家産を裕にして人生を意義あらしむるが、蓋し齊家の要道であるとしたのである。

僕の家は源氏であつて、祖先は赤松氏である。連綿として正しき系圖の下に向榮へつゝある。之れ家系を重んじたからである。僕の家は、現に親子、夫婦、主僕の関係を有して居るが、何時も春風が吹いて居る。來客は多く泊る人も少からずあるが、よい氣持になつて呉れる、僕の家は、富めるものではない。然し人の厄介にならぬ丈の家産は出來た。美田を子孫に残す事は出來ぬが、正しき日本人として子孫を残しつゝある。

( 267 )

僕は家に恵まれて居る、故に家系を汚さぬ事に注意し、祖先の恩を忘れる暇がない僕は家庭に恵まれて居る。今日は家を顧みる事は出來ないが、家庭に後顧の憂はない故に僕は女房に敬意を表し感謝をして居る。僕は家産に恵まるゝ程には達して居らぬ



が、家産のために心は勞する事はない。世間に對して、義理と人情は盡くす事が出来る事を喜むで居る、故に決して家産を粗末にせぬ覺悟で居る。家に恵まれて居る僕は、勢ひ感謝の生活をせねばならぬのである、僕の農場には、感謝して日光を迎へ感謝して粗食を味ひ感謝して勤勞に服し、感謝して安眠に就くと揭示して居るが、之れは僕の心持を卒直に表現して居るのである。又た僕は近來左の文句を作つて、敢て人にも其悟を開けとすゝめて居る。

天を敬する者は天に恵まる

地に親しむ者は地より與へらる

人を愛する者は人に酬ひらる

恵まれて其恩に悟る能はず、其徳に酬ゆる事の出來ぬ事は蓋し不幸の人である。長き家には必ず知恩報徳の家風が出來て居る。其家風の破れる時に其家が傾くが、世の常である、我皇室は齊家の模範を垂れさせられて居る、孝道は皇室に於て尤も嚴肅で

ある、我祭社の儀は皇室に於て尤も嚴守されて居る。皇室の御繁昌、竹の園生の御彌榮は、恐れ多くも偶然でないと拜察すべきである。我日本民族は、皇室に則りて齊家の道に立つべきであり、以て皇室の藩屏とならねばならぬとする。

修身は齊家の上に實行さるべきであり、治國は齊家の上に出來る以上、齊家の功德は大なり、偉なりとすべきである。今日の世相を見て、僕は益々齊家の道を提唱し、完備し、教示せねばならぬ事を痛感する、而して、世に僕と所見を同ふする人の、必ず尠からず存在する事を信するものである。希くは、同憂の士、益々齊家の道を闡明せんことを。



## 餘 録

### は し が き

友人松本喜作氏は、日本一の百姓として令名のある人である。自己の力によつて、新に家を建て直ほした人である。氏の農業に關する所信は、既に著述になつて世間に出て居る。氏は齊家の必要と功德とを、僕に劣らず知つて居る人である。近來、氏は僕の齊家論が結論に近づくと聞き、氏の經驗より農家道をかいて送られた。急いだ爲めに章句に面白からぬ所もあり、順序の變な所もあるが、之を訂正加除する餘裕がないので、氏の原文のまゝをかきそへて附録とする。貴き氏の體驗上より生れた農家道を附録となし得た事は、佛に入眼を得た感がする諸君と共に松本氏に感謝する。

### 農 家 道 其の一

#### ◇國體と人とを辨ふべき事

我國は皇祖國を肇むるより農を以て治國の本本となし歷世相紹ぎ厚く勸農に心を注がれし國柄なれば此稼穡の道を勵むは軍人の戈を取つて立つと同じく臣子第一の務めとす、されば吾人は厚く此國體を重んじ忠實業に服し能く勤めよく勵みて御聖志に添ひ奉る様心がけざるべからず。

#### ◇五倫五常の道を辨へざるべからず

人の此世に立つには人道を辨へざるべからず、君に忠に親に孝に兄弟仲睦じく朋友に他人に交りて信あり夫として妻を愛し妻は夫に貞操をつくし恩を受けなば其恩義を忘れず之に酬ひ行ふ所に表裏なく正直を本旨とする事は誠に人の大道なり、此道に立たぬものは縦令技藝に熟達しても富は如何に得ても人としての價値なきものなり。



◇同情が第一

他人の爲めに尊き生命と財産とを捧ぐるものは神と崇めらるべき行爲なり、又我利慾の爲めに他人の迷惑を顧みぬものは禽獸に等しとする、されば吾人は常に思やりの心を以て衆と共に共存共榮を樂しまざるべからず、尙進むでは神に近づく事に心掛けざるべからず。

◇無理をせぬが大切なり

世には權勢に任せて弱者を凌ぎ或は勢利相争ふて他を排撃して非道の事を敢てするものあるは誠に情なき事の限りなり。

◇氣節を貴び廉恥の風なかるべからず

近時の世相は利を以て誘へば今日の味方も明日は敵と豹變し卑怯なる振舞、人に爪弾せらるゝの行爲寧ろ知識階級と稱せらるゝ方面に多くも恬として恥づるなし、如何に人情紙より薄しとは云へ農家には斯る薄情の事は出来ぬ、寧ろ我農民こそ指導者と

して斯る事は教ゆるものとする。

農家道 其二

◇善き堅き相續人を得る事

家道として一番大切な事は善良なる相續人を得る事である、よき相續人を得るには平系の心掛け善良ならざれば得る事が出来ぬ、即ち種を植て初めて美果を得るのである、人もし、その行爲よろしからずして子孫のみ良からん事を希ふは蒙も亦甚しと云はねばならぬ。

◇一家和合

夫婦相和し親子睦しく眷族共に喜んでくらす事は家を持つ一番大切な事である、中に一人でも我儘であつたり短氣なものがあれば今迄圓滿の家庭も破壊せられるものなれば相戒しめて我一人を慎しみ睦しく暮らすは家を興隆する要諦である。



◇業をかへてはならぬ

我家は父祖より農業を営み來り産を興したる故に相續人として決して農業以外に職を來むべからず、若し業にして利益なしとすれば夫れは業に精しからざる故である、實に農業程安全にして且つ愉快なるものはない、くれぐれも大切なる家業即ち土地に離れてはならぬ事を戒しめ置く。

◇治産に深き注意を拂ふ事

古も今も財産なければ何事も出來ず又人として社會に立つの資格殆んど無しと云ふも可ならむ、別きて世の進むにつれて切實に感ずるものは産の必要である、故にかりそめにも治産の道を忘れてはならぬ、所謂治産の要道とは

い、忍耐精勵にして一家の収入を多からしむる事

ろ、質素を旨として支出を節約し以て收支相償ざるに至らしめざる事

は、平素貯蓄を心掛け収入の五分を以て支出に充て五分を貯蓄する位に心掛けねば

家の結果である家資分産すれば、慣れた土地に居れぬことになる。家運が傾けば、土地に居悪くもなることになる。それ故に土地には、れるは大切であり、土地には、れることとなるは大事である、而もそれは齊家であり齊家によりて出來ることを思はねばならぬのである。

繰りかへして云ふ、齊家には、一に女房には、れ、二に業には、れ、三に土地には、れ、と古人が教へたことは、實に貴いことであり、則るべきことであるとする。換言すれば、家政をよくして餘す所を多くし、家業に巧みにして得る所を多くし、土地に安定が出來る家をつくることによりて人は福利を得國家の基礎が固まるのである。

◇家政の意義

人生の脅威は生活の不安であり、不自由である。生活に比較的心配がなく、不自由がなければ、人生は面白くもあり、愉快でもある。従つて其處に、色々の考慮が必要となり、工夫が肝要となり、努力が大切となる。一家に於て、それ等は家政の方面で



あるとする。

生活に巧拙があり、上手下手があり、進退がある。富めるもの必ずしも面白い生活が出来ぬものでなく、貧しきもの必ずしも不愉快な生活をせねばならぬものではない。又た貴きもの必ず高尚なる生活をなし、賤しきもの必ず下劣な生活をせねばならぬものでもない。それは一に家政の巧拙により、上手下手に基き、賢愚によりて出来るものである。

故に人生に目醒め生活意識が明かになればなるほど、よりよき人生を迎へ、より進むだ生活を欲するは、當然のことである。それ故に「家政に自覺し、家政に向上を期するは、文明人の常であり、文化人の面目であるとする。之れ今日、家政が一の學問となり、科學にもなつて來た所以である。

圓滿にして面白い家庭をつくるも、明るい愉快な生活をするも、家政の如何によりて制せらるゝ場合が多い。義理人情を辨へて、隣保團結の美風を保全し、社會公共に

と云ふ戒むべし。

◇投機的事業を戒めねばならぬ

米相場或は株式等の賣買に手を染むべからず、之れをなしたる爲め破産せるもの頗々たるべし。

◇利慾の爲めに道を踏みちがへてはならぬ

人の此の世に生息するには無理のない様たとへ財産は量に於て少くも囊中聊か不淨の財を含まざるが尊しとす。

### 農家道 其の三

一、朝の早起きは家道第一の務めたる事

楠公の壁土に鶏鳴に起きざれば薄暮に悔ありと早起きは世帯持ちの上の上なるものなり。



尙家屋敷の洒掃に怠らず屋敷に筥の跡は心持よきものなり

二、神佛の禮拜は怠るまじき事

朝の務めとしては神佛の禮拜は知恩感謝の著しき表顯と知るべし

三、食事をする毎に挨拶すること

一粒の飯と雖も汗と骨の結晶であれば此の粒々の苦辛に對し難有く禮讚すべし

四、米を初め五穀や御飯を大切にすべき事

道元禪師の正法眼藏の内に米は御米と云ふべし又は飯は御飯と云ふべし食ふといふより頂くと云ふべしと教へられてある只夫を云ふ丈でも御の一字を付くべしと教へられてある。

只米の精けたるもののみでなく稻の扱ひの時も或は米の調製の時も或は俵や器物よりこぼれぬ様虫にも喰はれぬ様にする事が大事である。

米を容るるに古俵を買ふて來り間に合せるものがあるが農に忠實なるものとは云へ

ぬ。

又米とぎの際でも或は又釜の肌付きでも又こげつきでも釜洗ひでも食残りの御飯でも櫃の肌付でも又一粒のこぼれたる御飯でも粗末にしない事。

五、麥飯は非常に人體の健康にも宜しく又利得のものなれば精く精戀して佳良の麥を作り色も能よ乾かし特に精白して用ゆべし

六、紙や繩や平素使用するものたとへ少しの小切れなりとも粗末にしない様大切に  
にする事

古より家を興し富を致せるものは此の心掛けのない者はない世に大徳の人と崇るゝ  
仁は物を粗末にせず行高く潔い人で徳の集積せる人である。

七、薪炭鹽等の使用に注意し炭の如きは使用後用なければ直に消壺に入れ再度の用に充て又最後に灰となりたらば雨にさらさぬ様に貯へ置き夏期菽類の肥料に用ゆれば効果著し如斯廢物を活かし用ふ故に古より農業を利用厚生の術とぞ申す



八、農家では醬油味噌を澤山にうまく作り置き之を用ひて買はない様にせなければならぬ

九、石鹼類、鹽、齒みがきは人の物自身の物の差別なく天物を粗末にせない様心を留むる事

自分は母より朝鹽にて齒をみがき之の鹽氣ある睡にて眼をこすり置けば眼病を煩はぬと教へられてあつた事を記憶する。

十、主人の務めとしては便所堆積場下水等不潔にならぬ様注意する事

十一、雨漏りは狼よりも恐しいといふ事がある雨漏れば家屋の材料は腐汚する疊や敷物はぬれる暴風にも堪へぬれば屋根の損傷塙の破壊等常に修繕を怠らぬ様せなければならぬ世に作る人は多いが保護を能くする人は少いものである

十二、主婦の務めとして味噌桶、醬油樽のかびやすきもの又は湯場流し等兎角不潔になり易き處を清潔になし置くべし

( 289 )

三十、主婦の務としては納豆梅干或は其他紫蘇生姜澤庵等を上手にうまく漬け置き農繁期の副食物となすに差支なき様用意周到なるべし

十四、農家では米麥は申すまでもなければども蕎麥玉黍蜀黍粟或は甘藷馬鈴薯等の如き副食物になるべきものを心掛けて作り置き米の食ひ延しをなす事が大事である

十五、農家では常に健康でなければならぬ此の健康を保持するに魚類等を買求める事は出来難きを常とすれば場所によりては養鯉をなし家禽家畜を飼育して其卵や乳を用ひ或は胡麻を澤山に作り置き動植物の營養あるものを食して健康を圖る事が大切である。

十六、農家の土産は字の如く可成其の訪ねる人が珍しく感じるもので密柑柿葡萄蔬菜或は糯白米茶或は眞綿等の自家の丹精で金を出さずに済むものを持參する様心掛けることも必要である。

十七、農家の農具は武士の武器の如し即ち精銳にして能率の揚るものを選ぶは云ふ



までもないが、常に手入保護及整頓を能くし如何なる事ありとも間に合ふ様平素用意しなければならぬ。

十八、農家では冬閑の時に忙しき時の事を思ひ其の仕事を仕越し置き平時に多時の事を考へて農具其他各般の準備に遺算なきを要す

#### 農家道 其の四

以上農家道の一、二、三は、農家道の大要であるが、更に此の上に世に恐れ戒むべきものの有る事を知りて深く是に備へねば家を安固に保つことは出来ぬ。

#### 災 禍

一、火災 放火は恨みの放火と或は悪しきもの  
處爲で不幸に遇ふこともあり類焼は家屋の隔離及火邊の構造及平素火氣に對する注意取締りにより免るるを得べし

二、地震 家屋の柱丈を短くし家の構造を堅牢にする事

三、洪水海嘯 大山ある處には山つなみあり大河の附近には洪水あり海岸の灣形をなせる處には海嘯あり戒めざるべからず

四、大雪 雪崩 山の急勾配の處には山崩れあり寒國には大雪あり是又場所により雪崩れあり是又戒むべき事なり

五、颶風 旋風 我國には暴風の襲來時に甚だしきものがある又處によれば旋風の來る處もある防風林の栽植保護家屋の堅牢保護は是非共必要である

六、雷 避雷針及注意によりて免る

七、饑餓 寒國では往々早冷が來り飢饉に迫る事がある又處によりて意外に早く雪が來り運搬途絶飢饉に迫ることもある之れには凶荒豫備の必要がある渡邊華山は天保飢饉の悲況を畫によりて戒められ奥州二本松在戸澤村佐藤唱といへる家には凶荒豫備の籾倉あるを見た。



難 義

一、盜賊 二、詐欺 三、誘惑

がある誘惑には又利慾により誘ふもの色慾により誘ふもの或は又人の嗜好に付けこんで誘はれ遂に失敗する事にもなる孰れも用心すべきである。

其 他

一、病難 慢性症あり流行病怪我がある注意を要す

一、喧嘩 是れも時と場合によりては人の意氣上せなければならぬことがあり心の争と口と手とを下すものの別はあるが、一步譲れば先づ圓滿に解決するを常とする

以 上

古より蟹は甲羅に似せて穴を穿つと云ふが、人も其自身の力量で持ち得る丈けに事を圖り内輪に事を求むるが世帯持ちの要諦である。

金原明善翁は世帯持ちは襤褸を世に見せぬ様風呂敷に包み容易に持ち得る程度こそ

宜しからんと云はれた事を記憶する。

思ふに農家では平時に有時の事を考へ無事なる時に災害の事を忘れず聊も油断なく一朝變事あるも泰然自若として迷はず疑はず勤め勵めば必ず家は興り國は彌榮ゆるものである。

◇業道の心得(業に信念を持つこと)

貝原益軒先生は土地に惚れ業に惚れ妻に惚れることを三惚と云ふて教へられてある即ち

我土地はよい土地で大事であると郷土を愛し

我が業は高いもの尊いものであると信じ

我妻は花なりと思ひ

我が家系は決して賤しきものでなく父祖を辱しめては相成らぬと心得  
我は必ずやつてのけると云ふ自信を持ち



之の道でやれば大丈夫であるとの正しき道を求め而して之に邁進して地位を得境遇を作り茲に初めて當初の希望が貫徹せられるものである。

農は怠りに荒み精しきに成る

斯ふすれば算盤に合はぬのあれでは勘定にくつゝかぬと云ふより先づ以て朝な夕なに努むることが必要である。

古より星を頂いて出で月を踏で歸り雨や風の厭ひなく風表に風矢來となり一心に作物を保護し土地家畜を我子の如く愛し慈しみ育めば必らず丹精の實り來るものである

#### ◇業の精髓

先づ金を得んと望むより金の取れる作物家畜のよい物を作り高く賣らんとするよりもこつちから足でさん出して商人が嚙り付く様の産物を出し、

自分から求めんでも人が探して來る様に勵み

自から賣らんでも人が買ふてくれる様に努め

金が一度は出て行つてもあの人の處でなければと直ちに戻つて來る様に

使はれる人はあの人の爲めなら如何なる困苦もじせぬ

土地があの人支配は有難く永久離れることは出來ぬと云ふ様に大切にすれば

茲に初めて人も集り土地も圓も得られ事業も成功するものである。

#### ◇労働は神聖

労働をすれば寒い時でも薄着でも汗が流れ食物は粗末でも滋味高粱よりうましく食べられ筋肉は益壯健となり安眠は得られ人世の生活は安定される即ちまづ幸福の基は身を勞する事によりて初めて得らるゝ。

世の勞ををしんで求むる處の多きもの深く目醒むべきである。

#### ◇農家の二大幸福 健康と自由

家人の健康は人生第一の幸福である此の幸福を得るには安心立命でなければならぬ心一點の不要なく生息して兒孫の彌榮へに繁榮する事は人世無限の幸福である、是



これは實に農業勞働によりてのみ最も多く享有さるゝ。

之と共に農者の最も多く受くる處のものは自由である、俸給生活をなすものは其の上級のものゝ支配を受けて精神上自由の拘束を受けなければならず、又職責上時間の制限を守らねばならぬ、茲に思ひ來れば農者の立場は實に平氣なものである。

#### ◇農家の強味

作物は仕付けさへすれば、たとへ、不幸にして家人に病難があつても、夜晝なしに生育する、此の點俸給生活をなすものより、最も強味であり、又農家では老人でも、幼童でも夫々場合によりては満足の一人に使へる事が度々あるが、俸給生活者には是れが出来ぬ。

我國に連綿として幾百年終始渝らぬ家は農家に多い。

#### 處世上卑見の一二

#### 知 恩

憊う考ふるに此の世の事は自身一人で今日の境遇を得たものではない。

上に皇天の恩あり又父祖の恩があり物の恩があり初めて今日の境遇を得て居るとすれば何事も有り難いと感謝すると共に又翌日の事を知らぬばならぬ。

勿體ないと云ふ事は精神上物質上兩方面の感謝を云ひ顯すよい言葉であるにもかゝらず此の言葉が漸次減退して世を呪ふもの日に多くなりつゝあるはなげかわしき事である。

◇言に信あり行に誠あるは人軸

言ふた事は之を實行し約した事は之を果し期した事は之をなすの覺悟がなければならぬ。

人に對する行爲に付てゝも然りであるが、又自己に對しても最初の期した事は之を爲し遂げなければ自分を欺した事になるとも思はれる。



されば人が、日常の金銭の貸借でも打合はした時間或は其他の事柄に就ても約を守ると云ふ事が大切で言に信あり行ひに誠あることが人の軸であると思ふ。

◇聞達を求めんより先づ務むるを要す

自ら御券を賣らんとあせるより人の求めて買はんとする様に努め自己が知られずとしてかくすよりも先づ以て内容を充實し己を責めて人を責めず怨ざるが肝要なり。

素質さへ宜しきものなりせば必ず後には顯れて必らず光を放つものである。

◇世を渡るには篤敬の行あるを要す

世を渡るには人を敬ひ人に謙り驕慢不遜の振舞なく篤敬の心を以て人に接すれば間違ひないものである己れ人を敬せずして人己れを崇むることを欲するはおろかなるものなり。

慈悲

慈悲は人の行ひ中最も尊むべき行ひにして古より慈悲に立つ劍刃なしと、されば、

己れの利慾を節して人に施すの心掛けなかるべからず。

人には明暗の兩方面あるを

知らねば失敗することがある

心正しきものは明るい方面のみを知りて殊によると闇黒の途に躓くことがある、されば人は此の兩面ある事を知らねばならぬとする、しからざれば賢き人とは云へぬ、只吾人は此の正しい明るい方面に進まんことを祈りてやまざるものである。

◇事には終始あるを知らねばならぬ

事の成るの日に成るに非らず成るの原因があつて初めて成るものであり敗るゝも又そうである。

されば吾人は常に己往と現在とを考へて將來の事を透視するの明がなければならぬ即ち達織もふかくななくてはならぬし人生の機微をも知るの明もなくてはならぬ。此の先きが見へ近いことも明らかに初めて失敗に遠かる事が出来る。



人には定見がなければならぬ

人には一定の見識がなくてはならぬ、之を聞いて迷ひ彼を聞いて動き又他を聞いて疑ひ考ふる様では何事も成る者ではない。

即ち一定の確固たる不拔の見識を備へ浮世の毀譽褒貶を度外に置き勇往萬進するの勇氣がなければならぬ。

#### 人世の行路

人世の行路決して平坦ならず長い一生の間には波もあり嵐もある、又山もあれば又谷もある、之の狂亂怒濤を突破し進退唯谷まる處を展て初めて平坦の境遇に立つることが出来る。

即ち百敗にこりず千笑に撓まず元氣を鼓して奮闘すれば遂には初志の貫徹が出来る  
精神一到何事が成らざる

格言に陽氣取發金石亦透精神一到何事不成と云ふてある。

#### 又古歌に

成せばなる成さねばならぬ成る業を

成らぬとすつる人のはかなき

と即ち終始一貫してやれば如何なる困難も災厄も物かは必ず突破して成就すること  
が出るものである。

以上は汪農世に出で三十六年間の體驗と古人の至教とを基礎とし現時の世相に感ずる處あり我國の心得にもとかくは物しつ。



不許複製

昭和十六年八月廿七日印刷  
昭和十六年三月三日發行  
九

齊家の葉

定價一圓五十錢  
外地定價一圓六十五錢

著者 山崎延吉

發行者 東京市神田區神保町一ノ五〇  
合資會社 泰文館代表者  
伊藤巳之助

印刷者 東京市牛込區早稻田鶴卷町三六五  
東郷博

發兌所 東京市神田區神保町一ノ五〇  
合資會社 泰文館  
電話神田四四九六番  
振替東京六七六〇三番

配給元

東京市神田區淡路町二丁目九番地  
日本出版配給株式會社

大 山 印 刷 所 印 行











416  
315



終

